BUDŌ NEWS

今月のニュース

演武大会開会式

日独交流 150 周年記念事業
ドイツ連邦共和国派遣日本武道代表団

ドイツで演武会を開催、３０００人が集う

（詳細は 8 頁より）

３種目を見開きカラーで紹介

全日本選手権大会

相撲
なぎなた
空手道

全日本相撲選手権大会

アマ横綱は松永六十四

天皇杯第60回記念全日本相撲選手権大会は、12月4日、東京・両国の国技館で開催された。決勝では、松永六十四四段（猶興館高校教）が丹野圭功参段（秋田県体育協会）を上手投げで降して、3年ぶり2度目のアマチュア横綱に輝いた。

（大会の詳細は16頁より）

優勝＝松永六十四四段（島根）

対戦成績

（予選）
一回戦○押し出し　橋本拓実（日本体育大）
二回戦○寄り切り　藤本将樹（立命館大）
三回戦　渡し込み○野口清之（日本大）
（決勝トーナメント）
二回戦○上手投げ　葛西剛大（近畿大）
三回戦○肩透かし　橋本拓実（日本体育大）
四回戦○寄り倒し　大道久司（東洋大）
準決勝○上手投げ　中村優太（豊浦総合支援学校）
決　勝○上手投げ　丹野圭功（秋田県体育協会）

決勝＝松永対丹野
松永（手前）が丹野を上手投げで降して優勝

開会式の様子

全日本なぎなた選手権大会

安喰愛に〝皇后盃〟

皇后盃第56回全日本なぎなた選手権大会は、12月4日、大阪市中央体育館で開催された。優勝は島根県の安喰（あじき）愛四段。並みいる実力者を退け、見事に2度目の皇后盃を手にした。

（大会の詳細は23頁より）

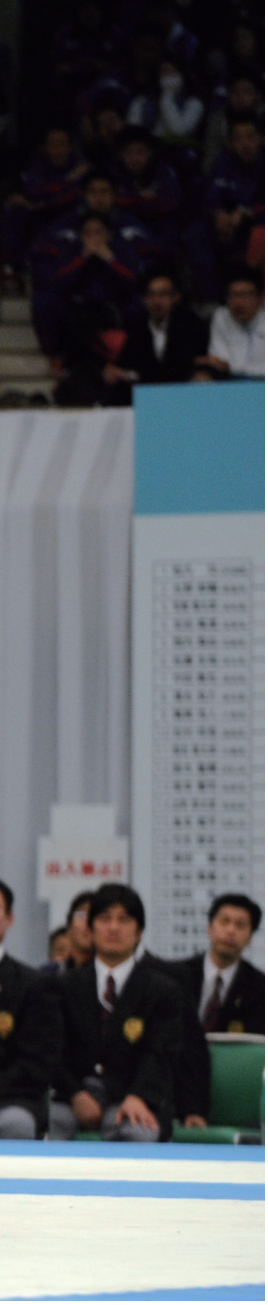
優勝＝安喰愛四段（島根）

対戦成績

一回戦	ス ス	千葉小絵美	（宮城）
二回戦	ツ メ	鳥飼　明子	（鳥取）
三回戦	メ	天川　彰子	（大阪）
準々決勝	判	尾形　美和	（佐賀）
準決勝	判	田中　千景	（京都）
決　勝	判	池見　敬子	（愛媛）

決勝＝安喰対池見
安喰（右）が遠間からスネを狙う。両者、激しい攻防を繰り広げるも、時間内に勝負はつかず、判定で安喰が勝利した。

開会式の様子



全日本空手道選手権大会

荒賀龍太郎が2度目の栄冠

第39回全日本空手道選手権大会は、12月10・11日の両日、東京武道館（10日）と日本武道館（11日）で開催された。男子組手個人戦は京都の荒賀龍太郎三段が2回目の優勝を果たし、女子組手個人戦は、前年度優勝の小林実希二段が連覇を達成した。

（大会の詳細は30頁より）

優勝＝荒賀龍太郎三段（京都）

対戦成績

二回戦　6―0 山口聡孔（岐阜）
三回戦　0―0 茅原史穏（岡山）
（延長2―0）
四回戦　4―0 井渕　智（山口）
準決勝　6―0 近藤大地（大阪）
決　勝　10―2 松久　功（前年度優勝）

男子組手個人戦・決勝＝荒賀対松久
荒賀（右）が上段突きを決め、ポイントを重ねる

大会式典の様子

日独交流150周年記念事業
ドイツ連邦共和国派遣日本武道代表団

武道を通じて日独の国際交流を図る

武道演武大会（相撲体験）

武道演武大会（森重流砲術）

日独交流150周年記念事業としてドイツ連邦共和国・デュッセルドルフ市からの招聘を受け、「ドイツ連邦共和国派遣日本武道代表団」は、昨年11月9日から16日まで8日間、ドイツ連邦共和国・デュッセルドルフ市を訪問した。

日本武道館の海外派遣事業は昭和53年（１９７８）からはじまり、日本武道協議会との共催で毎年実施しており、昨年度からは文部科学省の国庫補助対象事業となっている。

今年度の日本武道代表団は、高村正彦・日本武道館常任理事（元外務大臣・法務大臣）を団長に、柔道、剣道、弓道、相撲、空手道、合気道、少林寺拳法、なぎなた、銃剣道の現代武道９種目と日本古武道協会加盟の竹内流柔術日下捕手開山、柳生新陰流兵法剣術、森重流砲術の３流派、総勢73名で編成された。

現地では、武道演武大会、ワークショップ（体験稽古会）、地元武道団体との交流稽古会、デュッセルドルフ大学武道文化セミナー、日本人学校ミニ演武会などを行った。

武道演武大会では、約３０００名の観客が来場し、大歓声の中、日本武道の真髄を存分に披露した。また、ワークショップでは約400名の体験希望者と交流を深めた。

◉日本と深いつながりをもつドイツ

日本とドイツとの交流は、江戸幕府が開国へ大きく門戸を開き、万延2年（１８６１）に日普修好通商条約が結ばれたことに始まる。以来、両国の交流は続き、日本は明治維新を迎え、政治・経済・文化に至るまでドイツを模範とした体制を多く採り入れてきた。

また、明治6年（１８７３）のドイツ商船ロベルトソン号遭難事件での、乗組員と宮古島島民との心温まる物語など、政治、経済のみならず、民間交流においても深いつながりを持っている。

Budo Delegation 2011 in Düsseldorf

■1日目

▽結団式・壮行会

11月9日、成田空港第一ターミナルビル南ウィング4階にて、平成23年度ドイツ連邦共和国派遣日本武道団の結団式・壮行会が行われた。始めに松永光日本武道館会長が「日本武道のすばらしさをドイツ国民に示し、印象づけてほしい。そして日本とドイツの友好親善に成果をあげてほしい」と壮行の言葉を述べ、団員を激励した。続いて高村正彦団長が、「多くの関係者がこの壮行会にご出席いただいたことに感謝を申し上げるとともに、各団体から選抜された、錚々（そうそう）たるメンバーに会えて心強い限りです。日頃鍛えた技と心をドイツの皆様方に披露し、日本との絆（きずな）がさらに強くなるよう貢献してきたい」と挨拶した。

来賓の紹介後、臼井日出男日本武道館理事長の発声により、派遣事業の成功を祈念して乾杯が行われた。小宴の後、全員で記念撮影。午後1時10分、空路ドイツへと向かった。

▽デュッセルドルフ到着

一行は約12時間の飛行を経て、乗り継ぎのためミュンヘン空港へ入る。しかし、濃霧の影響でデュッセルドルフ空港まで到着できず、急遽（きゅうきょ）ケルン空港に降り立つ。代表団はバスにて一路デュッセルドルフへ向かい、午前3時、ホテルに到着した。

■2日目

▽表敬訪問

団長及び各道代表者12名とプロジェクトチームは表敬訪問を行った。訪問先は、在デュッセルドルフ日本国総領事館とデュッセルドルフ市役所の2カ所である。

午前10時、日本国総領事館を訪問。小井沼紀芳総領事から歓迎を受ける。小井沼総領事は「ドイツは、武道に関心が高く、柔道、剣道、弓道、空手道など、多くの武道クラブがあります。武道を通じてドイツの方々と交流を図ってください」と挨拶を述べた。高村団長が小井沼総領事に謝辞を述べた後、日本武道館刊行書籍33冊の贈呈目録が手渡された。

午前11時、バスにてデュッセルドルフ市庁舎へ向かい、ディルク・エルバース市長の歓迎を受ける。挨拶を交わした後、高村団長から日本とドイツの友好の証しとして、「兜（かぶと）」

ディルク・エルバース市長に兜の置物を贈呈する高村団長

ルフ大学文化部学部長ブルーノ・ブレクマン教授が歓迎の言葉を述べた。続いて、高村団長が「日独友好150周年を記念し、デュッセルドルフ大学と共同で武道セミナーが開催できることに感謝しています。武道はもともと闘争の手段でしたが、現代では正義感、克己心、相手を思いやる心など、人間形成の道として存在価値を高めつつあります。この講演と各道、各流派の演武を通じて、日本の文化をより深く感じていただきたい」と挨拶した。引き続き高村団長から、これからの武道研究に役立ててくださいと、日本武道館刊行書籍の贈呈目録が手渡された。

続いて「日本武道の美とこころ」と題して、柳生新陰流兵法剣術第二十二世・柳生耕一宗家の講演が始まった。通訳は、本派遣事業メンバーで、デュッセルドルフ大学出身のソリドーワル・マーヤ氏（現国際武道大学研究生）が担当。聴講者は、真剣な眼差しで、約30分間の講演を聴き入っていた。講演が終わると、聴講者から、「武道と武士道の違いは」「何歳から武道を始めたか」「日常生活と武道は」などの質問があった。

その後、各道、各流派の演武が始まった。森重流砲術と竹内流柔術は飛行機の遅れにより用具が届かず、演武が出来なかったものの、それを補うかのように、各道とも迫力ある技の数々を披露。終了後に設けられた質問コーナーでは、多くの質問が集まった。午後9時、武道セミナーは盛会裏に幕を閉じた。

■3日目

▽ボン、ケルン視察

ウェルカムパーティー

団員はボン、ケルンを視察後、午後7時よりエアクラート市にある日本国総領事公邸に招待され、総領事主催のウェルカムパーティーに出席した。小井沼総領事は、「本年は日独外交関係150周年の記念すべき年にあたり、また、本日は2011年11月11日と、1が6個並ぶ珍しい日です。このような日に皆様をお迎えで

の置物と日本武道館刊行の英語版『日本の武道』が手渡された。

▽武道セミナー

午後3時30分、団員はホテルを出発。武道セミナーの会場であるデュッセルドルフ大学へと向かった。同大学は緑に囲まれた環境のよい場所に立地し、学生数1万4千人の総合大学である。

午後7時、「武道セミナー」が開会。開会式には学生や各学部教授などが出席した。始めにデュッセルド

武道セミナーの様子。上・なぎなたの演武
右・柳生耕一宗家の講演に聴き入る学生たち

きることは、非常に印象深いものがあります」と挨拶。続いてドイツ側の協力者が紹介された。

次に、高村団長の発声により乾杯が行われ、代表団はドイツ側の協力者と和やかに交流を図った。

■4日目

▽日本人学校ミニ演武会・交流稽古会

相撲、少林寺拳法、銃剣道、竹内流柔術、柳生新陰流兵法剣術、森重流砲術の6団体は、デュッセルドルフ日本人学校で演武披露とワークショップ（体験稽古会）を行った。柔道、剣道、弓道、空手道、合気道、なぎなたの各団体は、現地の団体と交流稽古・親睦会を行った。

日本人学校には9時に到着、体育館を借用して準備に入った。二井康文教頭の協力も得て、持参した長さ20ｍもの垂幕（たれまく）を体育館正面に掲げた。参加者は主に小学生で、保護者同伴で集まり、開会前には約200名が入場した。

午前10時に開会、国歌斉唱、高村団長の主催者挨拶、黒木広充校長の謝辞と続き、その後、高村団長から黒木校長へ日本武道館刊行書籍の贈呈目録が手渡された。

竹内流柔術、柳生新陰流兵法剣術、少林寺拳法、銃剣道、相撲が持ち時間6分で演武を行った。子供たちは、各演武に興味を示し、緊張しながらも真剣な眼差しで見つめていた。演武終了後のワークショップは盛況で、子供たちは夢中になって各種目を体験した。保護者や関係者も参加するなど、大変な盛り上がりをみせ、午前11時30分に終了した。

会場を後にした一行は、翌日の演武会場カステロ・デュセルドルフへ移動。演武大会の準備に取りかかった。また、森重流砲術は、会場責任者、消防保安員、現地で火薬等の手配や会場責任者との交渉にあたったライプニッツ・クラウス氏の立ち合いのもと、試し撃ちを行った。準備を終えた団員たちは、翌日の演武大会に向けて気持ちをひとつにした。

■5日目

▽武道演武大会

代表団一行は、午前8時に演武会場となるカステロ・デュッセルドルフに到着。収容定員4000人の会場であるが、弓道の的側にある客席部分は、安全に配慮して立ち入り禁止にしたため、実際の収容人数は3000人ほどとなった。午前中はリハーサルを行い、午後1時に開場、当日は、曇り空で外は非常に寒かったものの、観客席はみるみるうちに埋まって満員となり、会場は早くも熱気につつまれた。

午後2時、予定通り「武道演武大会」が開始された。日本武道代表団が堂々たる姿で入場すると、観客は歓声と割れんばかりの拍手で迎えた。両国国歌斉唱の後、高村団長が「このたび、日独交流150周年記念事

ミニ演武会・ワークショップに参加した小学生の感想

▽「剣道は竹刀が重くてふらふらしたけど最後にはちゃんとできました。森重流砲術は、鉄砲を持ったらものすごく重かったです。1日中持ち歩くのは大変だと思いました」（3年生男子）

▽「竹内流柔術の先生が言っていた『相手がけがをしたら大変だから、お互いの気持ちを考えて練習する』という言葉に感動しました」（3年生男子）

▽「銃剣道の演武がよかったです。女の人もやっていて、すごいなと思いました」（4年生女子）

▽「相撲の体験をしました。3人がかりで倒そうと思ったけど、お兄さんはすごく強かったです。またやりたいです」（4年生女子）

ワークショップに夢中になって参加する日本人学校の小学生たち

武道演武大会開会式

業として、日本武道代表団が日本の伝統文化である武道の真髄を披露できますことを、大変喜ばしく思います。演武を通じ、皆様に武道の心、日本の心を肌で感じ取っていただきたい」と力強く挨拶を述べた。続いて、デュッセルドルフ市助役ブルクハート・ヒンチェ氏が「デュッセルドルフ市では、武道が盛んに行われています。皆様を歓迎するとともに、良い演武ができますよう、心から祈っています」、小井沼総領事が「デュッセルドルフは、日本の武道に対して関心が高く、今回の武道演武大会を通じて、日本とドイツの相互理解の交流が促進されることを願っております」と祝辞を述べた。その後、団員紹介が行われた。

ブルクハート・ヒンチェ
デュッセルドルフ市助役

小井沼紀芳
日本国総領事

高村正彦団長
（日本武道館常任理事）

演武始めは弓道。緊張感が漂う中、厳かに「持的射礼」が始まった。静まりかえった会場に、的を射抜く音が響き渡ると、観客から自然に拍手が湧き起こった。続いて、少林寺拳法、剣道、なぎなたが演武。その後、剣道対なぎなたの異種試合が行われた。

一進一退の攻防に、観客の興奮はいっそう高まり、熱戦を終えた演武者が正面に礼をすると、会場から大きな歓声と拍手が起こった。次に合気道、柳生新陰流剣術、相撲が演武した。相撲の団員が「股割り」をすると、その柔軟性に観客から感嘆の声があがった。演武はその後、銃剣道、竹内流柔術、空手道、柔道と続いた。各道ともそれぞれ特性を活かし、工夫を凝らした演武で観客を魅了した。また、相撲と柔道では体験稽古会が行われ、地元の子供たちが楽しく参加する姿に、保護者からも大きな声援が送られた。

武道演武大会会場
カステロ・デュッセルドルフ

最後の演武は、森重流砲術。17回発射された火縄銃の爆音は腹の底に轟き渡り、会場に立ち昇る硝煙は圧巻の光景であった。

閉会式では、高村団長が「武道の美と心に触れられたでしょうか。本日は皆様方とお会いできる良い縁に恵まれたことに感謝し、日本武道代表団の演武会を終了します」と感謝の言葉を述べた。すると、満員の観客から惜しみない拍手が送られ、演武会は盛会のうちに幕を閉じた。

武道演武大会

弓　道

合気道

空手道

少林寺拳法

相　撲

剣　道

銃剣道

柔　道

なぎなた

森重流砲術

柳生新陰流兵法剣術

竹内流柔術日下捕手開山

ワークショップ

▽ワークショップ

武道演武大会終了後、ワークショップ（体験稽古会）が行われた。入場制限を設けて1部、2部と総入替制で実施し、約400名が参加した。1部は、剣道、弓道、相撲、少林寺拳法、銃剣道、竹内流柔術が、2部は柔道、空手道、合気道、なぎなた、柳生新陰流兵法剣術、森重流砲術が担当した。様々な種目を体験できる、またとない機会とあって、アリーナは参加者でごった返した。また、各道の前には行列ができ、団員たちは、手取り足取り丁寧に指導していた。

■6日目

▽郊外視察・解団式

世界遺産に登録されている、ドイツ中部ライン河流域をバスで視察。

19時からホテル1階「ガリレイ」で、解団式が行われた。高村団長が「この団を支えてくれた多くの皆様方に感謝申し上げます。武道の真髄を披露し、当初の目的を果たすことができました」と述べ、団員を労った。続いて、空手道の津山捷泰氏の発声で乾杯が行われた。団員は種目を越えて演武会の成功を祝い、交流の輪が広がった。その後、今回のドイツ派遣事業で多大なご協力をいただいた、ドイツ柔道連盟会長ペーター・フレーゼ氏に、高村団長より日本人形がプレゼントされた。最後に、弓道の坂本孝英氏の一本締めで解団式は締めくくられた。

解団式、現地での協力に尽力した
ペーター・フレーゼ氏に日本人形が贈られた

■7日目・8日目

▽帰国

午前10時の便でフランクフルトを経由してドイツを発つ。16日午前8時30分、成田空港に到着。日本武道代表団は全ての日程を終えて、無事に帰国した。

◇おわりに

文部科学省の国庫補助対象事業として、日本武道館が企画・実施した

この事業は、ブラジル、オランダ、メキシコに続き、今回のドイツで4年目となる。「武道の国際的普及振興を図り、国際友好親善に寄与する」という使命を果たすために編成された代表団は、各種目とも演武会やセミナーに工夫を凝らし、地元武道団体との交流稽古会にも真剣に取り組んだ。本事業実施にあたり、ドイツの方々が生の演武会や武道セミナーに参加することで、日本の武道文化に深い関心を持っていただいたと感じる。

事業実施にあたり、各武道団体をはじめ、外務省及び総領事館、現地武道団体、演武会場のスタッフ、ライプニッツ・クラウス、和子夫妻、デュッセルドルフ大学の前みち子教授など、関係者には多大なるご支援をいただいた。特にドイツ柔連会長のフレーゼ氏には、現地で中心となって各団体をまとめ、印刷物発注や観客動員までご尽力くだった。派遣事業に関わった全ての方々に感謝し、厚く御礼申し上げる次第である。

（財団法人日本武道館・ドイツ連邦共和国派遣日本武道団代表団プロジェクト事務局　渡邊一彦）

ドイツ連邦共和国派遣日本武道代表団

（敬称略）

◇団長
高村正彦（日本武道館常任理事）、高村治子（団長秘書）

◇コーディネーター
ソリドーワル・マーヤ

◇プロジェクト事務局
吉川英夫（事務責任者）、渡邊一彦、端春彦（日本武道館）

◇柔道
濱田初幸（八段）、兒玉篤（七段）、眞喜志慶治（六段）、下山陽邦（五段）、竹澤稔裕（五段）、市川裕治（四段）

◇剣道
村上済（範士八段）、山下和廣（教士八段）、田邊重義（教士七段）、大城均（教士七段）、塩﨑正昭（教士七段）、鈴木淳子（四段）

◇弓道
坂本孝英（教士七段）、重信和行（教士七段）、工藤誠一（教士七段）、本橋民夫（教士七段）、平松賢一（教士七段）、三池真幸（四段）

◇相撲
石浦将勝（四段）、清家拓丸（四段）、山下成樹（三段）、神藏順規（三段）、上田将平（三段）、積田雄大（三段）

◇空手道
津山捷恭（範士八段）、村松真孝（範士八段）、阪梨學（範士八段）、近藤剛（範士八段）、西川吉重（教士七段）、竹川達男（教士七段）

◇合気道
横田愛明（七段）、櫻井寛幸（六段）、鈴木俊雄（四段）、日野皓正（四段）、武田林大（三段）、永井若樹（二段）

◇少林寺拳法
佐藤健二（正範士八段）、長田正紀（正範士八段）、井戸家理夫（正範士七段）、荒井章士（准範士六段）、梅林朱梨（正拳士四段）、中尾美保子（中拳士三段）

◇なぎなた
木村恭子（教士）、芦川寿美（教士）、梅原敬子（錬士）、黒川依子（錬士）、蓮見可奈恵（五段）、石川ゆかり（四段）

◇銃剣道
佐藤亨（範士八段）、相野照昭（教士八段）、中島克直（教士七段）、長谷川元（教士七段）、衛藤敬輔（教士七段）、山口あや子（錬士六段）

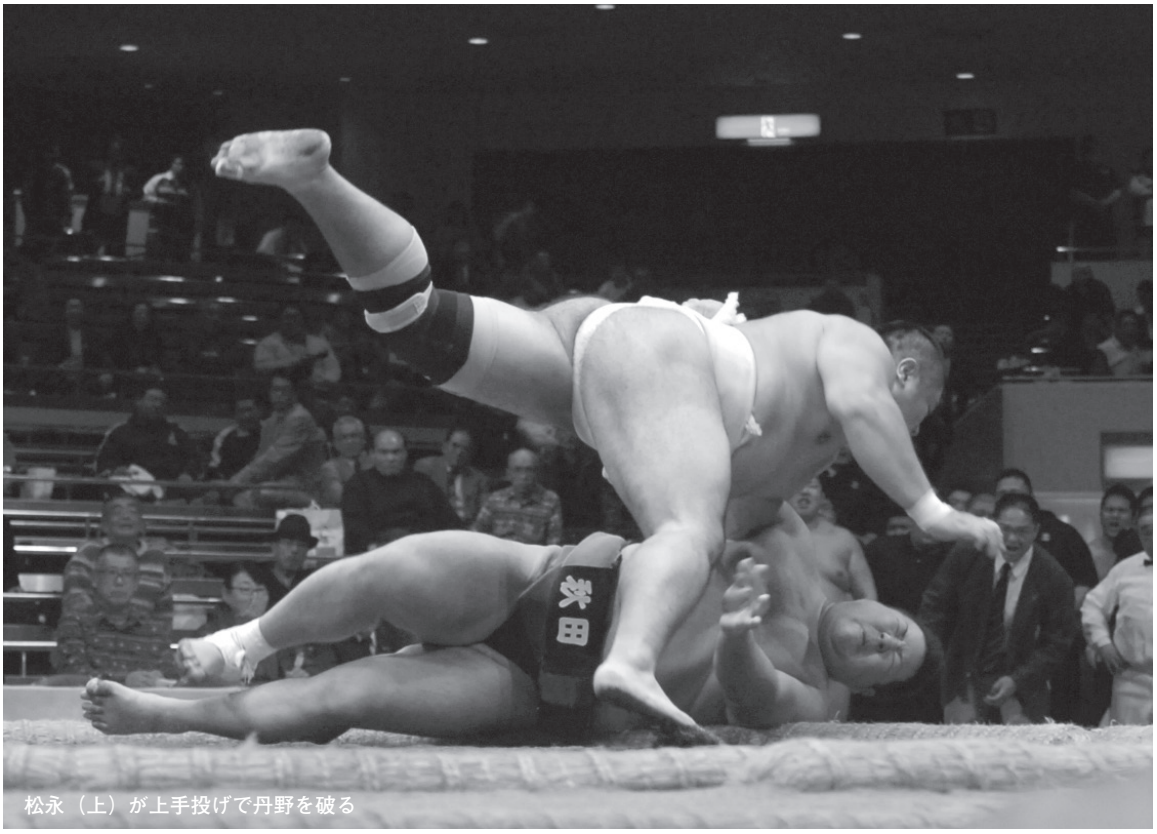
◇竹内流柔術日下捕手開山
竹内藤一郎（宗家）、芦田有正（五段）、芦田和正（四段）、小島康男

◇柳生新陰流兵法剣術
柳生耕一（第22世宗家）、坂保行（抜刀・目録）、鈴木英雄、葭谷努

◇森重流砲術
布川誠（森重流免許）、角替進（森重流免許）、石井和己（森重流免許）、片山直巳（森重流目録）

◇記録
後閑信弥（㈱クエスト）

（団長以下総勢73名）



松永（上）が上手投げで丹野を破る

天皇杯第 60 回記念全日本相撲選手権大会

松永六十四が 横綱の座を奪還

天皇杯第60回記念全日本相撲選手権大会は昨年12月4日、東京・両国の国技館で開催された。

決勝では、第57回大会優勝者の松永六十四段（猶興館高校教）が丹野圭功参段（秋田県体育協会）を上手投げで降して、3年ぶり2度目のアマチュア横綱に輝いた。3位には中村優太四段（豊浦総合支援学校）と滝田真参段（日本体育大）が入賞した。

大会には社会人37名、大学生29名、高校生2名の計68名が出場した。4人1組のリーグ戦による予選を行い、2勝以上の32選手が決勝トーナメントに進出する。

前回2位の荒木関賢悟（東洋大学職）は、予選で高校生の木崎信志（鳥取城北高）に敗れる場面もあったが、2勝で決勝トーナメントへ。前回3位・昨年の国体優勝の山口雅弘（日本大）、元選手権者の冨田元輝（和歌山県庁）や松永六十四（猶興館高校教）、国体2位の中村優太（豊浦総合支援学校）、他にも主要大会で上位入賞を果たしている強豪が決勝トーナメントに出揃った。なお、前回優勝の澁谷悟（日本通運）は欠場。

決勝トーナメントの組み合わせは抽選で決定。優勝候補の一人山口は、初戦で丹野圭功（秋田県体育協会）に敗れた。ベスト8には、高橋修（島原高教）、滝田真（日本体育大）、冨田、丹野、荒木関、中村、大道久司（東洋大）、松永が勝ち上がった。

◇準々決勝◇

滝田真　寄り切り　高橋修

立ち会い、滝田が低く入って高橋を押していく。土俵際まで追い込み、最後は寄り切った。

丹野圭功　切り返し　冨田元輝

立ち会いから丹野が冨田の後ろに回り込むと、冨田もすぐに反応して突き放す。丹野は下手を差して冨田にまわしをとらせず、踏み込んできた冨田の右脚に自分の左脚をまわし、切り返して冨田を倒した。

中村優太　下手出し投げ　荒木関賢悟

立ち合いで中村が前褌を引く。中村は体を開き、押しにくる荒木関を前方に下手で投げて勝つ。

松永六十四　寄り倒し　大道久司

大道が松永を突っ張って、土俵際まで追いつめる。ここで松永が強烈な張り手で大道の体勢を崩し、一気に寄り倒した。

◇準決勝◇

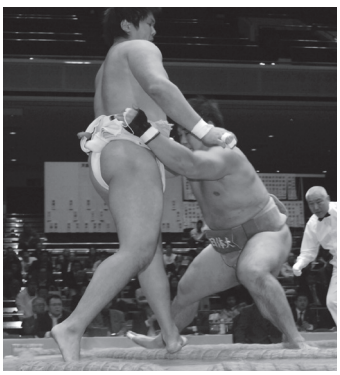
丹野圭功　送り出し　滝田真

立ち合いから滝田が低く入って押していく。丹野は前に出てくる滝田の脇に回り込むと、土俵外に送り出して、初の決勝進出を決めた。

松永六十四　上手投げ　中村優太

大学時代の同級生同士の対戦となった。はじめに中村が右上手をとるが、松永に振り切られる。松永は中村の体を引きつけて右上手を引き、一気に上手で投げ、3年ぶりに決勝に駒を進めた。

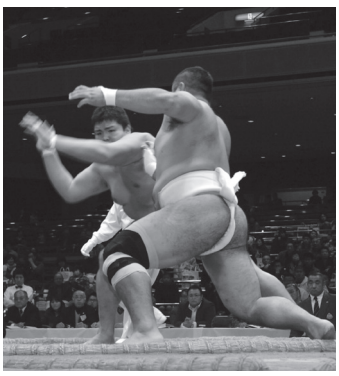
準々決勝



滝田（右）対高橋

中村（右）対荒木関

丹野（右）対冨田



松永（手前）対大道

準決勝・決勝

丹野（左）対滝田

松永（手前）対中村

松永（奥）対丹野

◇決勝◇

松永六十四　上手投げ　丹野圭功

立ち会いで強く当たると、丹野が左を深く差して松永を振り回す。得意の右上手をひけない松永は、右で丹野の首を抱えながら、左上手をとって投げにいく。丹野も必死にこらえたが、上手投げが決まって、松永は3年ぶり2度目の優勝を果たした。

◎準優勝＝丹野圭功参段（秋田県体育協会）

「学生の日本一ばかりと戦えたから、悔しいというより嬉しいです。プレッシャーはありませんでした。

決勝トーナメントは胸を借りるつもりで土俵に上がりました。山口選手に勝ってはずみがついて、冨田選手にも勝つことができました。国体で右足を怪我したので、ここまで来られるとは思いませんでした。私を支えてくれた方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

高校を卒業して、専門学校に入り、柔道整復師の資格を取りました。現在は、相撲を教えるテクニカルアドバイザーという形で仕事をしています。普段は母校の金足農業高の稽古に交じって、高校生を相手にしています」

◎3位＝滝田真参段（日本体育大）

「基本に忠実に集中して相撲をとる、それが今年のテーマだったので、調子が悪いながらも、集中してできました。しかし、丹野選手は右をさすと強いのが分かっていたので、それだけを警戒してしまいました。丹野選手についての情報が入るのが遅すぎました。ちょっと悔しいですね。

次の大会は4月です。オフの間に、

◎松永六十四四段（猶興館高校教）

「日体大の齋藤先生のアドバイス通りに戦いました。また、この1年間、日体大の後輩たちが良い活躍をしてくれて、自分も頑張らなければという気持ちになれました。齋藤先生と後輩たちに感謝しています」

前回優勝してから3年。その間、地方大会も含めて、どの大会でも良い成績を残せず悔しい思いばかりだったという。試合直後のインタビューでは涙も見せた。

「生徒たちに良い報告をしたいという思いが一番にありました。今の生徒は、みんな前回の優勝の後に入学してきた子たちなので、みんなが在学しているうちに優勝したいと思っていました。ほっとした気持ちもあり、思わず涙しました」

そのような思いを持って、「今年こそは」と自分に言い聞かせて大会に臨んだ。そして勝ち進み、決勝で丹野と対戦。得意の右ではなく、左の上手投げで優勝を手にした。

決勝に臨む松永

「決勝は完璧には自分の相撲ではありませんでした。普段なら、左では全く投げないので、引いてしまうような状況でしたが、残そうという気持ちで、とっさに体が動きました」

生徒たちへの思いで再び優勝を手にした松永は、現在2年生の担任をしながら、相撲部の顧問をしている。現在、相撲部の部員は一人しかいないそうだ。

「その子のためにも、勧誘をしっかりしていかなければいけません。相撲が盛んでない地域というわけではないですが、中学までででやめてしまう子が多いです。今年からは、中学生の練習や合宿に参加して声をかけたりして。そういうことが実を結んでいけばと思います」

指導者として目標にしているのは、恩師である日体大の齋藤一雄監督。

「小学生から相撲をやってきて高校まで何の実績もないまま大学に入り、齋藤先生の指導のもとで力をつけることができました。自分もそのような、二流、三流の選手を一流に育てていける指導者になりたいです」

選手としてはもちろん、指導者としての今後の活躍にも期待したい。

下半身の強化と、どっしりと押し相撲ができるように体重を増やして、もう一度頑張ります。今120kgくらいなので、130kgはほしいです」

◎3位＝中村優太四段（豊浦総合支援学校）

「出場6回目で、今回一番良い結果を残せました。（平成23年は）山口国体の年だったので、それに向けて強化をしてきたのが成績につながっていると思います。

松永は大学の同級生で、今でもよく練習しています。やりにくさはありました。右上手を狙ってくるのは分かっていたので、それを警戒しすぎて、立ち会いで弱気になりました。

目標だった国体も終わったので、今後は全日本選手権で優勝することだけを考えてやっていきたいです」

◎日本体育大・齋藤一雄監督

「松永の良いところは自分の形があるところです。形がある選手はここ一番で強い。彼は社会人になってから、この大会でしか優勝したことがないと思います。

決勝も絶対勝つと思っていましたが、勝つまで安心するなと言いました。後は、前に出ながら相撲をとれと。松永の場合、引かない限り負けのパターンは考えにくいからです。決勝の試合展開はあまり良くなかったのですが、掴んでいれば何とかなるという本人の自信があったのでしょうね。今日はここ一番の集中力が素晴らしかったと思います」

前列松永、後列左から丹野、中村、滝田

【大会結果】

優　勝＝松永六十四（猶興館高校教）
準優勝＝丹野圭功（秋田県体育協会）
3　位＝滝田　真（日本体育大）
中村優太（豊浦総合支援学校）

JOCジュニアオリンピックカップ　全日本小学生相撲優勝大会

川渕一意（4年以下）・山内康（6年）が初優勝

5年生は當眞嗣斗が連覇

平成23年度JOCジュニアオリンピックカップ第24回全日本小学生相撲優勝大会が、全日本相撲選手権大会の合間に開催された。

◆小学4年生以下の部

2年生から4年生までの33名が出場。今年度のわんぱく横綱・下村湧偉（青森）は、準決勝で川渕一意（大阪）に押し出しで敗れた。決勝は川渕と小関拓道（青森）の4年生同士の対戦となり、川渕が小関を引き落として優勝した。

◎優勝＝川渕一意選手（大阪）

「うれしくてたまりません。自分でも良い相撲をとれたかなと思います。いつもテレビで見ている力士が相撲をとるのと同じ場所でとれたのも嬉しいです。将来は横綱になりたいです。稀勢の里や琴奨菊に憧れています」

◇2年生力士が健闘◇

小学4年生以下の部に、ただ一人の2年生・角田虎紀（三重）が出場した。東海ブロックの予選さえ今回が初めての挑戦だったにもかかわらず、2勝してベスト8と健闘。年上の選手を相手に堂々と戦った角田選手も、試合後話を聞くと「2年生が一人でさびしかった」と低学年らしいところを見せた。将来は白鵬のような力士になりたいという。これからの活躍が楽しみである。

◆小学5年生の部

33名が出場。わんぱく横綱の當眞嗣斗（沖縄）が決勝に勝ち進み、前回4年生の時と同じ徳田龍大郎（鹿児島）と対戦。當眞がはたきこみで徳田を降して、連覇した。

◎優勝＝當眞嗣斗選手（沖縄）

「嬉しいです。自分の相撲をとれました。4年生のときも5年生のときも夏と冬両方の大会で優勝しているので、6年生でも優勝したいです。

6年生の先輩のお父さんから『負けて追いかけてくる人の方が先を越すかもしれないから、気をつけて練習しろ』と言われたので、練習はあまり好きではないけれど、頑張ります。追いかけてくる人の3倍以上は頑張らなければいけないと思います」

◆小学6年生の部

決勝は、今年のわんぱく大関の山内康（青森）と関脇の太村健二（鹿児島）の対戦となった。わんぱく相撲準決勝でも対戦している二人だったが、山内が掬い投げで太村に今回も勝って優勝を手にした。

◎優勝＝山内康選手（青森）

「この大会での優勝は初めてで、とてもうれしいです。でも、もっともっと稽古しなければだめだなと思いました。前に出ることができなかったので、そこを直していきたいです。これから中学生や高校生になっても、全国大会で優勝できるよう頑張ります」

【大会結果】

◆4年生以下の部▽優勝＝川渕一意（大阪）▽**2位**＝小関拓道（青森）▽**3位**＝行大成（鹿児島）、奥田琢朗（石川）

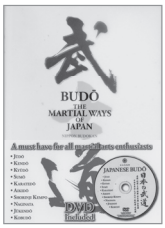
◆5年生の部▽優勝＝當眞嗣斗（沖縄）▽**2位**＝徳田龍大郎（鹿児島）▽**3位**＝春山万太郎（鹿児島）、菅野圭祐（東京）

◆6年生の部▽優勝＝山内康（青森）▽**2位**＝太村健二（鹿児島）▽**3位**＝秋葉拓（山形）、干場伸介（石川）

日本武道館発行の単行本（本をクリックすると、詳細が表示されます）

今、なぜ武道か
―文化と伝統を問う―

福島大学教授
中村 民雄 著
（四六判・上製・370頁）



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編
翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット
（B5判・上製・DVD付・336頁）

武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー
菅野 純 著
（四六判・上製・410頁）

大先輩に聞く

月刊「武道」記者
田谷 将俊 著
（四六判・上製・376頁）

マンガ・武道のすすめ

漫画家・別府大学教授　田代しんたろう 著

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」を単行本化！
柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・銃剣道・古武道の各先生方に毎回直接インタビュー取材し、武道の良さ、すばらしさをおもしろく、わかりやすく、描いています。
大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。

（B5判・236頁）

武道各種目の概要を見開きで解説

相撲は4名の先生方を紹介

塔尾武夫 現代相撲かくあるべし
住吉和則 相撲好き遺伝子を守る！
下村勝彦 静岡焼津 さかなの町のわんぱく力士
安井和男 先輩部長が育てる侍力士

一千数百年の歴史を有する
武道の全容をこの一冊に集大成!!
武道小百科事典としても役立つ
充実した巻末の資料編!!

柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・
少林寺拳法・なぎなた・銃剣道をはじめ、
各武道統括団体の全面協力によって完成!!

日本の武道のすべてを網羅した武道関係者必携の書

日本の武道

日本武道館 編

好評発売中!

（B5判・上製・箱入・526頁）

≪目 次≫

序 章
刊行の辞 … 塩川正十郎 日本武道館・日本武道協議会会長
刊行にあたって … 松永 光 日本武道館理事長
武道のすすめ … 養老孟司 東京大学名誉教授
武道憲章（「武道憲章」「武道憲章英訳文」「こども武道憲章」）
カラー口絵（日本武道館、9武道＋日武協30年のあゆみ）

第1章 日本の武道
第1節 日本の武道 …… 杉江正敏 大阪大学教授
第2節 武士道から武道へ … 菅野覚明 東京大学大学院教授
第3節 武道の近代化・嘉納治五郎師範の教え …
村田直樹 講道館図書資料部長
第4節 武道の魅力 …… 大保木輝雄 埼玉大学教授
第5節 学校武道の歴史 … 本村清人 東京女子体育大学教授
第6節 武道の教育力 …… 菅野 純 早稲田大学教授
第7節 日本武道館 …… （財）日本武道館

第2章 日本の古武道
第1節 日本の古武道
第2節 古武道の技と心 … 横瀬知行 古流武術研究家

第3章 現代の武道
第1節 柔 道 …… （財）全日本柔道連盟
第2節 剣 道 …… （財）全日本剣道連盟
第3節 弓 道 …… （財）全日本弓道連盟
第4節 相 撲 …… （財）日本相撲連盟
第5節 空手道 …… （財）全日本空手道連盟
第6節 合気道 …… （財）合 気 会
第7節 少林寺拳法 …… （財）少林寺拳法連盟
第8節 なぎなた …… （財）全日本なぎなた連盟
第9節 銃剣道 …… （社）全日本銃剣道連盟

第4章 組織・研究機関
第1節 日本武道協議会
第2節 全国都道府県立武道館協議会
第3節 日本武道学会
第4節 日本古武道協会
第5節 武道学科等設置大学 ①国際武道大学 ②国士舘大学 ③東海大学 ④日本体育大学 ⑤鹿屋体育大学 ⑥中京大学 ⑦天理大学 ⑧筑波大学

第5章 資料編
第1節 役員名簿・組織図
第2節 日本武道協議会武道功労者一覧
第3節 全日本選手権大会優勝者一覧
第4節 年表「武道・近代百四十年の歩み」中村民雄 福島大学教授
第5節 学校体育における武道の変遷 本村清人 東京女子体育大学教授
第6節 武道主要参考図書

（現職・法人名は刊行時）

編集・発行 日本武道館
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!
TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

安喰愛四段、実力者を退け２度目の皇后盃

宮川祥子全日本なぎなた連盟会長から皇后盃を受ける安喰選手

皇后盃第 56 回全日本なぎなた選手権大会は、昨年 12 月 4 日、大阪市中央体育館で開かれた。

大会には、前年度優勝者と全国 47 都道府県から選抜された 55 選手が出場。試合方式は、5 分 3 本勝負のトーナメント戦で争われ、時間内に勝負が決しない場合は、旗判定で勝負を決した。

優勝は安喰（あじき）愛四段（島根）が 3 年ぶり 2 度目、2 位に池見敬子五段（愛媛）、3 位は貫井（ぬきい）みさき四段（京都）が入賞した。

◇序盤戦

3 回戦では前回優勝の田中千景（京都）と元選手権者の佐藤あき子（熊本）が早くも顔をあわせる。接戦の末、田中が判定で勝利した。

3 年前にこの大会を制している安喰愛（島根）は、同じく優勝経験のあるベテラン尾形美和（佐賀）と準々決勝で対戦。積極的に動いて攻め続けた安喰が、判定で尾形を降した。

最多優勝の記録（7 回）を持つ池見敬子（愛媛）は、準々決勝までの相手が全て世界大会メンバーという厳しい戦い。初戦（2 回戦）と 3 回戦で判定、準々決勝は一本勝で、実力どおりに勝ち上がった。

準決勝に進出したのは田中、安喰、池見、貫井みさき（京都）。

◇準決勝

田中と安喰が対戦した。

安喰は序盤からスネ、ツキ、コテと技を散らして積極的に攻める。田中はそれを冷静に捌（さば）き、隙を狙ってメンを打ち込む。終盤になると接近戦が多くなり、両者の技数が減る。有効打のないまま判定となり、安喰が勝利。決勝の舞台へと進んだ。

池見と貫井の対戦は、池見が遠間からのツキ、持ち替えてからのメンなどで先行して攻める。貫井がスネで応じるも、池見は身軽に跳んで躱（かわ）す。両者疲れをみせずに技を繰り出すが決定打には至らず、判定へ。池見に 2 本あがり、決勝進出が決まる。

◇3 位決定戦

貫井対田中、京都同士の対戦。貫井はスネに跳び込み積極的に一本を狙う。対する田中もスネで返す。1 分過ぎ、貫井はコテで攻めて接近し、すかさずメンを放つ。これが決まって貫井がリード。試合はそのまま終了し、貫井が一本勝ちをおさめた。

◇決勝

安喰対池見。昨年の世界選手権決勝と同じ顔合わせ。そのときは判定で池見が勝利している。

序盤は安喰が遠間からメン、ツキ、池見は間合をはかりながらスネ、ツキで攻める。一進一退の攻防が続く中、終盤にかけて、安喰がスネを中心に攻める。池見の手数が減るも、ベテランの意地をみせてこれを凌（しの）ぎ、勝負は判定へと持ちこされた。

緊張感が漂う中、旗は赤の安喰に揃い、3 年ぶり 2 度目の皇后盃を手にした。

◇選手コメント

◎優勝＝安喰愛選手（島根）

準々決勝から決勝まで、3試合連続で優勝経験者と対戦。特に準決勝の田中選手と決勝の池見選手には特別な思い出があるという。

「田中先生は昨年7月の世界大会でコーチを務めておられ、技をはじめ、なぎなたとはどういうものなのかを教えていただきました。

池見先生には大学時代からお世話になっています。そもそも松山大学に進学を決めたのも、池見先生が愛媛にいたからです」

二人の師に勝利して優勝。どのような気持ちなのだろうか。

「先生たちのお陰でここまでこられたということを伝えたかったです。教えていただいたことを、自分がどう受け止め、表現しているのかをみてほしかったです」

ベテラン選手の教えをうけ、見事に皇后盃を手にした安喰選手。今後について伺うと、

「ちょっと休んで……旅行にでも行きたいですね」と、笑顔。

国体等、各大会に加え、世界大会、そして今回の全日本。また、これらのための強化合宿などが続いた一年だった。27歳という若さでも、体力的・精神的に相当辛かったに違いない。ゆっくり英気を養って、今後も活躍を続けてほしい。

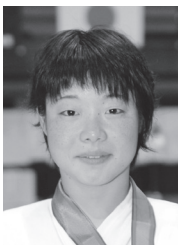
▽準優勝＝池見敬子選手（愛媛）

「昨年と同じく決勝に進出できて、満足しています」

今回もあと一歩届かなかった。しかし表情は明るく、落ち込んでいる様子もない。

「悔しいと思っていたら先に進めません。なぎなたは奥が深く、一生勉強できる武道です。40歳になった今でも見つけられないことがあります。常に勉強中。負けて落ち込んでいる暇はありません」

▽3位＝貫井みさき選手（京都）



「初戦から自分のペースがつかめず、打ちたい所で打たせてもらえませんでした。3位決定戦では、田中先輩と対戦するとは思いませんでした。たまたまメンが入りました」

▽目標初戦突破＝千葉小絵美選手（宮城）

2回目の出場。前回初戦敗退。今回、初戦の相手は安喰選手。

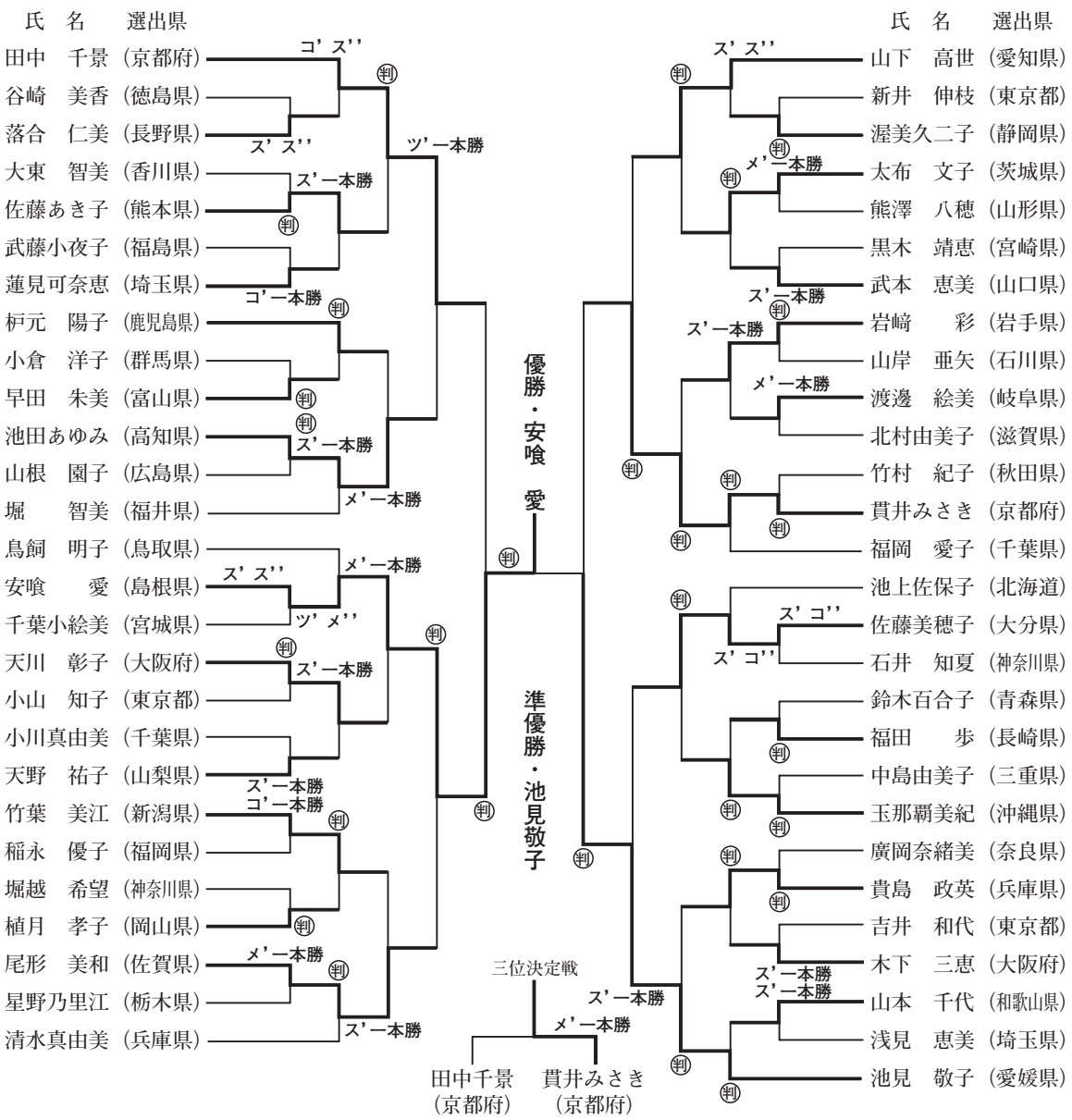
「安喰選手とは同級生ですが、勝ったことがありません。震災の影響でまだ道場は使えませんが、初戦突破のために頑張ります」

3位決定戦＝貫井対田中
貫井（左）のメンが決まる

準決勝＝池見（左）対貫井

準決勝＝安喰（右）対田中

皇后盃　第56回全日本なぎなた選手権大会



直心影流薙刀術
（打太刀・園部正美、仕太刀・萩原晴子）

天道流薙刀術
（受太刀・砂川碧、仕太刀・木村恭子）

全日本なぎなたの形
（仕・成田登代子、打・砂川邦子）

決勝＝田中対小川
田中（右）がスネで攻める

第11回全日本男子なぎなた選手権大会

田中康介四段（三重）が2年ぶり3度目の優勝

第11回全日本男子なぎなた選手権大会は、昨年12月3日、大阪市中央体育館で開かれ、田中康介四段（三重）が2年ぶり3度目の優勝を果たした。2位は小川賢太郎四段（千葉）、3位は榊清史四段（和歌山）が入賞した。

大会前には、公開競技として演技競技会が行われ、榊清史・榎本智史（和歌山）が優勝したほか、試合競技終了後には参加者全員による団体基本の公開演技が行われた。

試合競技には、31都道府県10大学から59名が出場、試合は4分間3本勝負のトーナメント制で行われ、時間内に勝負が決しない場合は、旗判定によって勝負を決した。

前回優勝の板垣勇四段（長崎）は欠場、2位の鈴木亘錬士は競技を退き、3位の渡辺倫生五段は県代表になっていない。昨年の1～3位が出場していない中、世界大会優勝者の田中康介（三重）に注目が集まった。

準決勝には、その田中と、榊清史（和歌山）、小川賢太郎（千葉）、町田大祐（国際武道大）が勝ち上がった。

準決勝、田中対榊は、榊がメンに出ようと振りかぶったところ、田中のスネがきまり、一本勝。小川対町田は時間内に決着がつかず、判定となり、小川が勝利した。

3位決定戦では、榊がのこり30秒で町田からスネを決めて勝利した。

【大会結果】
優勝＝田中康介（三重）
2位＝小川賢太郎（千葉）
3位＝榊清史（和歌山）

■演技競技
▽**優勝**＝榊清史・榎本智史（和歌山）
▽**2位**＝河合健太朗・加藤大貴（愛知）
▽**3位**＝笠井亮太・岡村佳樹（関西大学）

3位決定戦＝榊対町田　榊（手前）のスネが決まる

左から榊清史四段、田中康介四段、小川賢太郎四段

準決勝＝小川（左）対町田

準決勝＝田中（左）対榊

□決勝

田中康介　ス―　小川賢太郎

2年前と同じ顔合わせ。そのときはスネで田中が一本勝ちしている。29歳、同い年で中学生の頃からのライバル。互いに手の内を知り尽くしているためか、これまでの試合より手数が少ない。相手の出方を探りながら、田中がスネ、小川がツキで攻める。開始2分半、中段に構えあったところから田中が小川のなぎなたを払い、続けざまにスネを放つと、これが決まる。

小川も負けじと遠間から攻めるが、あえなく時間。田中が2年ぶり3度目の優勝を果たした。

▽優勝＝田中康介選手（三重）

「結果としては嬉しいのですが、まだまだ強い人がいるので……」

今回欠場した板垣選手のことが気にかかっているようだ。

「板垣先生とは是非戦いたかったです。試合に出ないことを今日知りました。悲しかったです。でも、それならば自分が優勝しなければならないと思いました。いつもと違うプレッシャーを感じていました。まだまだ稽古して、男子なぎなたの普及にも貢献できるよう努力していきたいです」

▽準優勝＝小川賢太郎選手（千葉）

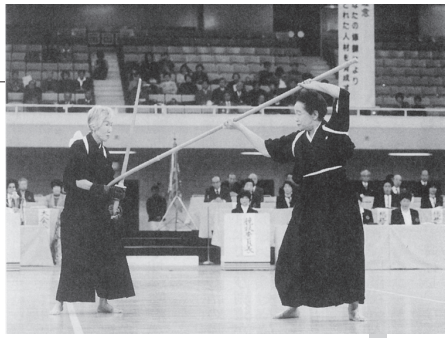
「決勝で2度も負けてしまい、悔しいです。仕事の関係もあり、稽古量が少ないので、質の高い稽古を今後していかなければなりません。体力も学生のころに戻したいです」

▽3位＝榊清史選手（和歌山）

「田中選手には接近戦からスネを取られました。面がまがったのを直そうと気を取られているときでした。敵ながらナイススネでした。切先で相手を制して一本をとりにいくなぎなたを目指していきたいです」

演技競技優勝＝榊清史・榎本智史（和歌山）

なぎなたという素晴らしい武道を
一人でも多くの人に伝えたい



私の歩んだ なぎなたの道

元全日本なぎなた連盟顧問

徳永 千代子 著

（四六判・上製・252頁）

戦前の薙刀術教員養成所に始まり、戦後の苦難の復興期を経て、現在の隆盛に至るまで、著者自身が歩んだなぎなたの道を振り返りながら、なぎなたの素晴らしさを謳い上げた会心作。なぎなた愛好者のみならず、武道指導者必読の一書。

◇第１章多感な少女時代　◇第２章薙刀術教員養成所　◇第３章卒業　◇第４章なぎなた教師◇第５章全日本なぎなた連盟結成　◇第６章財団法人化　◇第７章体協加盟と国体参加　◇第８章生涯続くなぎなたの道

編集・発行　日本武道館
〒102-8321　東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！
TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

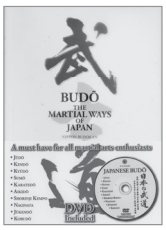
日本武道館発行の単行本（本をクリックすると、詳細が表示されます）

日本の武道

日本武道館 編

（B5判・上製・箱入・526頁）

一千数百年の歴史を有する武道の全容を一冊に集大成。武道小百科事典としても役立つ充実の巻末資料など、武道関係者必携書。



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット

（B5判・上製・DVD付・336頁）

武道のすべてを網羅した『日本の武道』の英語版がついに刊行！ 海外武道修業者・関係者におすすめしたい決定版。

今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

（四六判・上製・370頁）

知っているようでよく説明できない武道のいろいろな文化・伝統的事柄を、古今の豊富な資料をもとに検証・解明していく。

贈る言葉

なぎなた範士からのメッセージ

月刊「武道」編集部 編

（四六判・上製・366頁）

全国各地のなぎなた範士25名が、後世のなぎなた人へ贈るメッセージ。近代なぎなたの史料ともなる各範士の歩みを綴った半生記集。

武道伝書を読む

天理大学教授

湯浅 晃 著

（四六判・上製・348頁）

『風姿花伝』、『兵法家伝書』、『五輪書』など、代表的な武道伝書をわかりやすく読み解き、読者のためになるメッセージを贈る。

マンガ・武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

（B5判・並製・236頁）

柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・銃剣道・古武道の各先生方に直接インタビュー取材し、武道の良さ、素晴らしさをおもしろく、わかりやすく描く。

武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

（四六判・上製・410頁）

臨床心理学の立場から、子どもを育む武道の可能性、教育力に迫る。子どもをより良く伸ばすための知恵と珠玉の言葉を満載。

大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

（四六判・上製・376頁）

傘寿を超えた武道界の先達30名が贈る、後輩への熱きメッセージ。修行時代から現在までの足跡を辿る、後世に残す記録集。

男子組手個人・決勝＝荒賀（右）が松久の上段蹴りを捕えて倒し、上段突きで一本を奪う

全日本空手道選手権大会

第39回全日本空手道選手権大会は、昨年12月10・11日の2日間にわたって開催された。1日目は東京武道館で男女組手団体戦の予選が行われ、2日目は日本武道館で男女組手個人戦、男女形個人戦と男女組手団体戦決勝が行われた。

男子組手は、決勝で荒賀龍太郎（京都）が松久功（前年度優勝）を降して、2年ぶり2回目の優勝を果たした。女子組手では、小林実希（前年度優勝）が決勝で染谷香予（埼玉）を退けて2連覇を達成した。男子形は大木格（前年度優勝）が2連覇し、女子形は宇佐美里香（前年度優勝）が3連覇を果たして4回目の栄冠に輝いた。男子組手団体では京都が4連覇を達成し、女子組手団体は、埼玉が初優勝を手にした。

男子組手

荒賀龍太郎（京都）が2年ぶり2回目の優勝

女子組手は、小林実希が2連覇

男子形は、大木 格が2連覇を達成

女子形は、宇佐美里香が3連覇で4回目の優勝を果たす

組手団体戦は、男子は京都が4連覇、女子は埼玉が初優勝

組手個人戦

試合はトーナメント方式で、試合時間を3分（女子2分）とし、4回戦までは2試合場（A・B）、準決勝から1試合場となり、決勝のみ試合時間4分（女子3分）で行われた。

得点は、上段・中段突き・打ちが有効技の1ポイント、中段蹴りが技有りの2ポイント、上段蹴りと倒れた相手への有効技が一本の3ポイントとなり、時間内でも8ポイント差がつくと勝敗が決せられる。

■男子

2名欠場で52名が出場した。試合はトーナメント方式で、試合時間は3分、4回戦までは2試合場（A・B）、準決勝から1試合場となり、決勝のみ試合時間4分で行われた。

Aコートは、前年度優勝の松久功は2回戦から出場し、高校生の荒賀慎太郎（高体連）を6―1で降すと、続く3回戦は吉田真澄（滋賀）を9―1で圧勝。しかし、4回戦では、近畿大後輩の篠原浩人（大阪）との対戦で苦戦を強いられ、延長の末、判定で辛勝、準決勝へ進出した。

一方、先の山口国体の軽量級で優勝した帝京大の遠山将平（長崎）が1、2回戦を危なげなく勝利し、3回戦は阿部裕治（新潟）を延長の末、破り、4回戦は近畿大の出町恭太郎（青森）を6―2で降して、準決勝に勝ち上がった。

Bコートは、前回3位で2年前の覇者、荒賀龍太郎（京都）が、2回戦から登場し、初戦の2回戦、山口聡孔（岐阜）を降し、3回戦はベテランの茅原史穏（岡山）に苦戦したが、延長戦で勝利した。4回戦は第34回大会で優勝した井渕智（山口）と対戦し、4―0で勝って、準決勝へ駒を進めた。

前回準優勝の宮本大希（学連）は、2回戦から出場して順当に勝ち上がったが、4回戦で、同じ近畿大で同期の近藤大地（大阪）に、1―0で敗れ、近藤が準決勝へ進出した。

▼準決勝

準決勝第1試合は松久対遠山。序盤、松久が遠山を追い詰め、上段突きで先制する。さらに上段突きを決めてリードすると、遠山の必死の上段突きが松久の顎に入って松久が転倒し、遠山が忠告を受ける。試合再開後すぐに遠山が中段突きを決めたが、その後は松久の独壇場となり、突きでポイントを重ねる。後半、松久の膝が遠山の上段に入って、松久も忠告を受けたが、松久は更にリードを広げ、7―1で勝利し、前回に続き、決勝進出を決めた。

第2試合は、荒賀対近藤、関西の学生同士の対戦。開始20秒、対峙から近藤が前に出たところを荒賀が合わせて上段突きで先制する。再び、膠着状態から、近藤の上段突きを躱して荒賀が上段突きを決める。近藤も果敢に攻めるが、荒賀は落ち着いて捌く。またしても近藤の上段突きを見切って返した荒賀の上段突きが決まり、4―0とリードする。残り20秒、近藤の中段後回し蹴りを捌いた荒賀が中段蹴りで2ポイント取得。そのまま終了となり、6―0で荒賀が2年ぶりに決勝進出を果たした。

▼決勝

決勝戦は、連覇を懸けた松久と、2年ぶりの優勝に挑む荒賀との対戦。最初に松久が攻め込んで上段突きで先制する。しかし、荒賀も松久の隙を攻めて上段突きを返す。その後、荒賀の左耳の出血で一時中断。

男子組手個人・準決勝＝荒賀（左）対近藤

男子組手個人・準決勝＝松久（左）対遠山

きで飛び込んだ瞬間、荒賀は上段突きを決め、逆転する。中盤に入り、松久が若干疲れを見せながらも、前に出て荒賀を追いつめる。荒賀は冷静に待ち、松久の一瞬の隙に上段突きを決め、リードを広げる。今度は松久の唇からの出血で試合が中断される。

残り1分、松久が飛び込んで上段突きを決め、1ポイント差に戻す。しかし、荒賀の左の上段突きが冴え、更にポイントを重ねて4―2となる。終盤に入り、後のない松久は勝負に出て、上段蹴りを繰り出すが、逆に荒賀が松久の足を刈って、突きを決め、一本を奪う。7―2と大きくリードが広がり、残り20秒、松久の放った左の上段蹴りを荒賀が掬って倒し、突きを決め、再び一本。10―2で8ポイント差となり、荒賀の2年ぶり2回目の優勝が決まった。

◎優勝＝荒賀龍太郎選手

「今年は負けてばかりで調子はあまり良くなかったのですが、開き直って、どんなかたちでも勝とうと思って臨みました　決勝は一つ目のポイントが取れたことが大きく、そこからは、相手も取りに来るだろうと頭に入れて、試合運びをしました。蹴りだけは貰わないようにと思い、蹴り対策の練習をしました。決勝では、偶然うまくいって一本取ることが出来ました。来年は世界大会できっちり勝って優勝します」

◎準優勝＝松久　功選手

「悔しいです。動きの無駄をなくして精一杯戦いましたが、荒賀選手が試合の流れをつかんだのだと思います。来年は、アジア大会も世界大会もありますので、この悔しさを糧にして、空手人生の集大成を披露できるように頑張ります」

■女子

54名が出場した。

Aコートは、前回優勝の小林実希は2回戦から出場し、順当に勝ち上がった。4回戦では大学の後輩、植草歩（学連）と対戦し、接戦を制して、準決勝へと進出した。

一方、大正大の東世菜（長崎）は、2回戦で前回3位の石塚明日美（秋田）と対戦して判定で勝ち上がると、3回戦も渡部友華（大阪）を退け、4回戦は大野ひかる（大分）に1―0で勝って準決勝進出を決めた。

Bコートは、2回戦で、帝京大の染谷香予（埼玉）が前回3位で第33回大会覇者の本間絵美子（岐阜）を1―0で破った。勝ち上がった染谷は、3回戦も鈴木ゆかり（山口）を降し、4回戦では、加藤智弘（新潟）を延長の末に破って準決勝へ進んだ。

一昨年の覇者で前回準優勝の宮本優（福岡）は、初戦で柴山恵理香（千葉）に判定で辛勝したが、3回戦では帝京大の五明真実子（神奈川）に6―3で敗れた。4回戦に進出した五明と対戦したのは駒澤大の廣瀬まり（東京）。初戦から調子の良い廣瀬は5―1で五明に勝利した。

▼準決勝

準決勝第一試合は、小林対東。小林は序盤から果敢に攻め、右の上段突きで先制する。東も応戦するが小

心技体 人を育てる総合誌
月刊 武道

女子組手個人・準決勝＝染谷（左）対廣瀬

女子組手個人・準決勝＝小林（左）対東

林の猛攻は続く。中盤に入り、小林の左上段蹴りが決まり、4―0と引き離す。東も技を繰り出すが小林の勢いは止まらず、更に小林が突きを2つ決めて6―0で圧勝。前回に続いて小林が決勝進出を決めた。

第2試合は、接戦を制してきた染谷と、順調に勝ち上がった廣瀬との対戦。まず、廣瀬が上段突きで先制するが、その後、染谷に上段蹴りを決められ一本を取られるとそのままリードを広げられる。終盤、廣瀬が突きでポイントを返すものの、染谷もポイントを重ねて終了。7―3で染谷が決勝に進出した。

▶女子組手個人・決勝＝小林（右）対染谷
小林が上段突きで先制する

▼決勝

決勝戦は、小林対染谷の対戦となった。序盤、小林が一気に間合いを詰めて上段突きを仕掛けるが、染谷も冷静に躱す。そして開始から50秒、小林が仕掛けて上段突きを決めて先制する。染谷も小林の隙を狙って攻撃を仕掛けるが、小林は冷静に捌き、互いに見合う。中盤、小林の猛攻に染谷の合わせた上段突きが決まって1―1となる。再び見合って互いに隙を探って攻防を繰り返すが膠着状態が続く。残り1分、遠間から染谷が前に出た瞬間に小林が飛び込んで中段突きを決め、小林が2―1で再びリードする。両者最後まで攻め手を緩めずに攻防が続いたが、そのまま終了となり、小林が2連覇を達成した。

◎優勝＝小林実希選手

「今年の最後の試合なので、思い切って攻めようと思い、連覇も出来て安心しました。何よりも、決勝は後輩と対戦出来たことが凄く嬉しくて、楽しんで試合が出来ました。4年生は、ほとんど引退なので、気持ちも楽になって空手を楽しめるようになりました。連覇して、4年間、お世話になった師範にも恩返しが出来たかもしれません。来年は大学の職員になり、コーチとしても頑張りますが、世界大会優勝を目指します」

◎準優勝＝染谷香予選手

「先輩と試合が出来て良かったです。挑戦者なので思い切り行き、落ち着いた試合運びも出来ました。兄と妹も出場していて頑張れました」

形個人戦

試合はトーナメント方式で行われ、勝敗は5名の審判員の旗表示による多数決で決せられる。

■男子

15名が出場。前年度優勝の大木格は順当に勝ち上がり、準決勝では宮崎健太（九州地区）と対戦。互いにスーパーリンペイを演武し、大木が5―0で破って決勝に進出した。もう一方の準決勝は、学連で優勝の喜友名諒（学連）と前回準優勝の栗原一晃（全空連推薦）が対戦し、喜友名のアーナンが栗原のソーチンを5―0で退け、決勝に進んだ。

決勝は、大木がチャタンヤラクーシャンクーで、喜友名はスーパーリンペイで挑んだ。気迫溢れる演武に会場も大いに湧く。判定は5―0と、大木が完勝し、連覇を達成した。

男子優勝＝大木　格

女子優勝＝宇佐美里香

◎優勝＝大木　格選手

「緊張しました。連覇は考えずに、一つ一つやりました。今年は大会も少なく、感覚がにぶっていたところもありましたが、良い形で終わることができました。形は日本のお家芸なので、来年の世界大会では頑張ります」

■女子

15名が出場。前年度優勝の宇佐美里香は2回戦から出場して順当に勝ち進み、準決勝で、井上和代（四国地区）と対戦。得意のコーソークン大を披露。井上はスーパーリンペイで臨んだ。判定は5―0で宇佐美が決勝に進出した。

一方の準決勝では、前回3位の梶川凛美（近畿）と鶴山千紗（学連）との学生対決となり、共にチャタンヤラクーシャンクーを演武した。判定は4―1で梶川が勝利し、決勝へ勝ち上がった。

決勝では、宇佐美のチャタンヤラクーシャンクーに対し、梶川は泊バッサイで挑んだ。宇佐美のスピード感ある演武と梶川の力強い演武に観衆は目を奪われた。判定は5―0で宇佐美が勝利し、3年連続4回目の優勝に輝いた。

◎優勝＝宇佐美里香選手

「去年までは勢いできましたが、今年は初心にかえって技を研究して臨みました。今後も、日本の代表として、世界で戦えるように自分の形を作っていきたいと思います」。

男子3位＝宮崎健太（上）、栗原一晃（下）

男子準優勝＝喜友名諒

女子3位＝井上和代（上）、鶴山千紗（下）

女子準優勝＝梶川凛美

組手団体戦

試合はトーナメント方式で、男子は5人制、女子は3人制で行われた。

■男子

47チームが出場。決勝は3連覇中の京都が順当に勝ち上がり、東京と対戦。3年前と同じ顔合わせとなった。

▼決勝

京都　2―2　東京
（得点17―12により京都の勝利）
荒賀慎太郎　0―1　香川幸允
谷　竜一　8―0　飯村涼太
荒賀龍太郎　7―7　渡邊大輔
志水亮介　1―4　松本拓也
中村公輔　1―0　丸川政宏

先鋒戦は東京・香川が勝利したが、次鋒戦は京都・谷が一本を決めるなど圧勝した。中堅戦は序盤に一本を決めてリードした東京・渡邊に対し、京都・荒賀が徐々に追いついて引き分けに持ち込んだ。副将戦では東京・松本が勝利し、2―1で東京が初優勝に王手をかけたが、大将戦で、京都・中村が接戦を制して2―2とし、ポイント差で京都の4連覇が決まった。

男子組団体・決勝次鋒戦＝谷（左）対飯村

女子組手団体・決勝中堅戦＝染谷（右）対千葉

■女子

2チームが欠場して45チームで争われた。4連覇を懸けていた東京は3回戦で千葉に敗れ、その千葉を破って勝ち上がった埼玉と、過去2回3位の神奈川が決勝で対戦した。

▼決勝

埼玉　2―0　神奈川
染谷香予　6―2　竹井美都樹
染谷真有美　6―0　千葉友花理
折原萌木　不　戦　五明真実子

先鋒戦、染谷（香）が上段突きで先制すると、神奈川・竹井も突きを返す。しかし、実力に勝る染谷（香）が、更にポイントを重ね、中盤には上段蹴りを決めてリードを広げ、勝利した。

中堅戦も染谷（真）が上段蹴りなどでポイントを重ねて勝利し、その結果、大将を残して、2―0で埼玉が初優勝を手にした。

第10回アジアシニア選手権大会、女子団体優勝チームの演武

【大会結果】

▽**男子組手個人**＝①荒賀龍太郎（京都）②松久功（前年度優勝）③遠山将平（長崎）、近藤大地（大阪）

▽**女子組手個人**＝①小林実希（前年度優勝）②染谷香予（埼玉）③東世菜（長崎）、廣瀬まり（東京）

▽**男子形個人**＝①大木格（前年度優勝）②喜友名諒（学連）③宮崎健太（九州）、栗原一晃（全空連推薦）

▽**女子形個人**＝①宇佐美里香（前年度優勝）②梶川凜美（近畿）③井上和代（四国）、鶴山千紗（学連）

▽**男子組手団体**＝①京都府②東京都③大阪府、奈良県

▽**女子組手団体**＝①埼玉県②神奈川県③福岡県、山梨県

日本武道館の単行本

空手評論家
金城　裕（きんじょう　ひろし）著

唐手から空手へ

題字　松永光日本武道館会長

（四六判・上製・四五四頁）

今の空手は、その源流である唐手（からて）の精神と伝統の技を忘れて成長してしまった。空手の将来に豊かな展望を持つためにも、唐手誕生の歴史を正しく認識する必要がある――。

空手修業歴八十年。生涯を空手に捧げてきた著者が史料を繙きながら、唐手が誕生し、空手となった過程を辿る。武道研究者必携の一書。

〈目次〉

第一章　「唐手」とは、の問いに答える
第二章　中国拳法を巡って
第三章　琉球と中国の関係史
第四章　松村宗昆、「手」に息吹きを与える
第五章　首里手から唐手へ
第六章　「唐手」から「空手」へ
終　章　空手の進むべき道

編集・発行　日本武道館
〒102-8321　東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本（本をクリックすると、詳細が表示されます）

日本の武道

日本武道館 編

一千数百年の歴史を有する武道の全容を一冊に集大成。武道小百科事典としても役立つ充実の巻末資料など、武道関係者必携の書。

（B5判・上製・箱入・526頁）

我が空手人生

國際松濤館空手道連盟館長 **金澤 弘和 著**

父母の教え、「からて」との出合い、厳しい修行、組織の結成、そして独自の空手理論構築まで、世界に空手を普及した男の記録。

（四六判・上製・372頁）

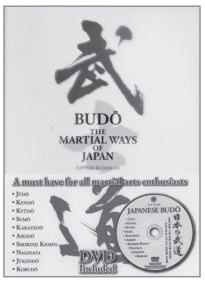
武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授 **菅野 純 著**

臨床心理学の立場から、子どもを育む武道の可能性、教育力に迫る。子どもをより良く伸ばすための知恵と珠玉の言葉を満載。

（四六判・上製・410頁）

BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN



日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット

武道のすべてを網羅した『日本の武道』の英語版。海外武道修業者におすすめの書。

（B5判・上製・336頁・DVD付）

マンガ・武道のすすめ

漫画家・別府大学教授 **田代しんたろう 著**

武道の良さ、すばらしさを、わかりやすく描く。大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。空手道は5話を掲載。

（B5判・並製・236頁）

大先輩に聞く

月刊「武道」記者 **田谷 将俊 著**

各武道の先達三十名に直接取材。武道との出合いから修行時代、そして現在を語る。空手道では江里口栄一、辻川禎親、金城裕の3氏を収録。

（四六判・上製・376頁）

男子 66kg 級決勝＝高上（下）が背負投で一本勝

柔道グランドスラム東京は昨年12月9～11日、東京・千駄ヶ谷の東京体育館で男女14階級に約60カ国400名が参加して行われた。

本大会は優勝者にIJF（国際柔道連盟）の世界ランキングを決めるポイントを300ポイント与えられる大会（詳細別掲）で今年8月に行われるロンドン五輪出場権獲得に向けて、重要な位置付けとなっている。

日本選手は各階級とも4名出場。男子100kg級、100kg超級、女子63kg級を除く11階級で日本選手が優勝を果たした。

柔道グランドスラム東京

五輪代表争いが激化

男子重量級は壊滅

■男子

▽60kg級

山本が連覇達成

高校生の髙藤直寿（東海大相模高）が準決勝まで勝ち進んだが、山本浩史（日本体育大）と対戦して合技で敗れた。決勝は山本が講道館杯優勝の川端龍（国士舘大）を朽木倒で仕留めて連覇を達成した。

▽66kg級

髙上が大金星

新旧世界王者・海老沼匡（明治大）と森下純平（筑波大）が次々と敗退する中、髙上智史（日本体育大）が世界ランク2、3位を破って決勝へ。相手は世界ランク1位のモグシコフ（ロシア）。髙上は巴投で技有を先制されるが、直後に豪快な背負投で逆転の一本勝を果たした。

▽73kg級

秋本、復活V

昨年の中矢力（東海大）と一昨年の秋本啓之（了徳寺学園職）の新旧世界王者が出場し、準決勝で対戦。2分過ぎ、秋本がしぶとく掛け続けた背負投が決まって決勝進出を決めた。決勝はイサエフ（ロシア）から背負投で技有を奪って優勝した。

▽81kg級

新星・川上が頂点へ

中井貴裕（流通経済大）は準々決勝敗退。そんな中、国際大会の経験がほとんどない川上智弘（國學院大）が決勝進出を果たし、昨年の世界選手権3位のギルエイロ（ブラジル）から谷落で一本を奪って優勝した。

▽90kg級

西山（将）が接戦を制す

■男子

▽ 60kg級

◉優勝＝山本浩史選手（日本体育大）

「納得できる試合ができませんでした。今回の優勝で五輪に向けてなんとか首の皮一枚つながりました。平岡選手を抜かないといけないので、今は上しか見てません」

◉３位＝平岡拓晃選手（了徳寺学園職）

「先、先に仕掛けられる場面が多かったのが課題です。もう一度気を引き締めて、再出発したいと思います」

▽ 66kg級

◉優勝＝髙上智史選手（日本体育大）

「とにかく結果が出て嬉しいです。勝ったことは自信になりました。ただ先にポイントを奪われる展開が多く、内容はよくありませんでした。しぶとく戦う柔道で頑張ります」

◉３位＝海老沼匡選手（明治大）

「モグシコフ選手はさらに強くなった印象を受けました。このままでは勝てないので、一からやり直します」

▽ 73kg級

◉優勝＝秋本啓之選手（了徳寺学園職）

「背負投が決まって自信になりました。中矢選手との試合は紙一重でした。本当にたまたまです。先は見えているので、挑戦者のつもりで一つ一つ頑張っていきます」

◉３位＝中矢力選手（東海大）

「いい調子で試合に臨めたのですが…。少し関節技を狙いすぎました。世界選手権で優勝して、おごりがあったのかもしれません」

▽ 81kg級

◉優勝＝川上智弘選手（國學院大）

「決勝は前に出るしかないと思って技をかけたらかかりました。ラッキーです。応援してくださる皆さんの声援に背中を押され、頑張ることができました」

◉中井貴裕選手（流通経済大）

「調子は悪くなかったです。自分は担ぎ技に弱いので、担がれないような組手を稽古していきます」

▽ 90kg級

◉優勝＝西山将士選手（新日本製鐵）

「結果としては勝ちましたが、内容がよくありません。運がよかっただけです。しっかりと練習していい試合をしたいと思います」

◉小野卓志選手（了徳寺学園職）

「勝てた試合でした。今は内容よりも結果が求められています。残りの大会をすべて勝ちたいです」

◉西山大希選手（筑波大）

「世界選手権以降、納得のできる柔道ができなくて本当に苦しい状況ですが、なんとか乗り越えたいです」

◉イリアス・イリアディス選手（ギリシャ）

「今日勝つこともあれば、明日負けることもある。それが柔道さ。次に向けて気持ちを切り替えるよ」

▽ 100kg級

◉３位＝穴井隆将選手（天理大職）

「相手の技を簡単に受けすぎた感がありました。柔道人生の集大成のつもりでやっています。内容も結果も貪欲に追っていきます」

◉羽賀龍之介選手（東海大）

「結果がすべてです。投げられたのは今の自分の実力です。情けないです。初心を忘れずにいきます」

◉優勝＝セルゲイ・サモイロビッチ選手（ロシア）

「プーチン首相が柔道家なので、ロシアでは柔道が盛ん。勝っても負けても自分を抑えて相手を思う。そこが柔道のすばらしさ。表彰式でソ連の国歌が流れたけど、穴井が英語で謝ってくれたよ」

▽ 100kg超級

◉石井竜太選手（JRA）

「最後は組手が雑なまま技をかけたところを返されました。国際大会の経験が浅いので、外国人選手をもっと研究します」

◉鈴木桂治選手（国士舘大教）

「五輪はかなり遠のいたんじゃないですかね。こんな柔道をしていておこがましいですが、やっぱり五輪には出たいです」

男子 60kg 級決勝＝山本（上）対川端

男子 81kg 級決勝＝川上（左）対ギルエイロ

西山大希（筑波大）と小野卓志（了徳寺学園職）が４強前に敗退。西山将士（新日本製鐵）は毎試合延長戦にもつれながらも勝って決勝戦へ。イリアディス（ギリシャ）を破ったゴンザレス（キューバ）を相手に攻め続けて、判定の末、連覇を決めた。

▽100kg級 穴井、準決勝敗退

羽賀龍之介（東海大）は２回戦でヴァンデルギースト（ベルギー）を破って準々決勝でファン（韓国）と対戦したが、延長の末に敗れた。穴井隆将（天理大職）は先にポイントを奪われる苦しい試合が続き、ついに準決勝でファンに敗退した。

▽100kg超級 日本、全滅

鈴木桂治（国士舘大教）は初戦敗退。講道館杯を制した石井竜太（JRA）は準々決勝でタングリエフ（ウズベキスタン）と対戦。開始１分、タングリエフは石井を抱え上げると、そのまま裏投で豪快な一本。唯一残った石井が敗れ、４強を前に日本選手は全滅した。

女子 48kg 級決勝＝浅見（手前）が小外掛で福見に一本勝

■女子

▽48kg級
浅見が福見に一本勝

浅見八瑠奈（コマツ）と福見友子（了徳寺学園職）が世界選手権に続いて、この大会でも決勝を争った。福見が序盤から積極的に仕掛けて、浅見に指導がつくも、福見は浅見の右小外掛を受けきれず、背中から落ちて万事休す。浅見がライバルとの直接対決を一本勝で制した。

▽52kg級
高校生の宮川がオール一本

中村美里（三井住友海上）は準々決勝でベルモイ（キューバ）に有効を奪われて敗退。準決勝でそのベルモイに勝った宮川拓美（小松大谷高）が決勝に進出した。相手は準決勝で橋本優貴（金沢学院大）を破ったニエト（フランス）。宮川は横四方固でニエトを抑え込むと、そのまま25秒抑え切って一本勝した。

▽57kg級
松本が佐藤を降す

世界選手権で一昨年優勝、昨年3

女子 52kg 級決勝＝宮川（上）対ニェト

位の松本薫（ＦＬＪ）は危なげない試合運びで決勝に進出。決勝では昨年の世界選手権の準決勝で敗れた佐藤愛子（了徳寺学園職）と対戦した。試合はＧＳにもつれ込み、背負投でしゃがみ込んだ佐藤が立ち上がるところを引きずり倒して有効。松本がこの大会、連覇を決めた。

▽63kg級 上野（順）、決勝で不覚

上野順恵（三井住友海上）は寝技が冴え、順当に決勝進出を果たした。相手は準決勝で田中美衣（了徳寺学園職）を破ったゾルニール（スロベニア）。ゾルニールは終始裏投を狙って上野の後ろに回り込もうとする。上野は十分に組めず、中途半端な組手で投げを打つ。互いに決め手を欠いたが、延長戦、上野に2回目の指導がついて敗退した。

▽70kg級 上野（巴）、田知本を破って初優勝

雅恵（アテネ・北京の女子70kg級金メダリスト）、順恵（女子63kg級）を姉に持つ上野巴恵（三井住友海上）は、準決勝で田知本遥（東海大）を指導2の僅差で破ると、決勝ではブランコ（スペイン）を相手に開始2分、内股が見事に決まって、初優勝を決めた。

▽78kg級 緒方、2年ぶりV

緒方亜香里（筑波大）は2回戦で池田ひとみ（自衛隊体育学校）を降すと、準々決勝では、岡村智美（コマツ）を破ったフェルケルク（オランダ）を大外刈に切って落として4強入り。準決勝では講道館杯で不覚をとった佐藤瑠香（コマツ）に借りを返して決勝進出を決めた。決勝は一昨年の世界選手権優勝のハリソンを相手に、横四方固を決めて一本勝した。

▽78kg超級 杉本が接戦を制して初優勝

杉本美香（コマツ）は初戦の準々決勝、ブライアント（イギリス）を払腰で破ると、準決勝はポラフデール（スロベニア）を強烈な内股で畳に叩き付ける。決勝は田知本愛（ＡＬＳＯＫ）を相手に延長にもつれ込むが、判定の結果3―0で杉本に凱歌。初優勝を決めた。

■女子

▽48kg級

◉優勝＝浅見八瑠奈選手（コマツ）

「決勝はずっと福見選手のペースでした。たまたま足がかかっただけなので、もう一度やり直したいです。自分は自分のペースで一歩一歩進んでいきます」

◉準優勝＝福見友子選手（了徳寺学園職）

「勝たなければ意味がないので悔しいです。課題を整理して、しっかり詰めていきます」

▽52kg級

◉優勝＝宮川拓美選手（小松大谷高）

「信じられない気持ちです。思い切りいけたことが勝因だと思います。応援してくださった方に感謝したいです。これからは日本のトップを目指して頑張ります」

◉中村美里選手（三井住友海上）

「いつも通りの調子でした。プレッシャーもなかったので、結果は残念です。最後の詰めが甘かったです」

▽57kg級

◉優勝＝松本薫選手（FLJ）

「気付いたら連覇してました。今大会の優勝は自信になりました。佐藤選手と決勝で戦えたのが嬉しかったです。今後の大会を一つ一つ大事に戦っていきます」

◉準優勝＝佐藤愛子選手（了徳寺学園職）

「疲れました。来年で引退するつもりなので、この大会も最後です。松本選手との試合は楽しかったです」

▽63kg級

◉準優勝＝上野順恵選手（三井住友海上）

「こんなに負けた年は柔道人生で初めてです。でもこの負けが私を強くしてくれると思うので、これを励みに頑張ります」

▽70kg級

◉優勝＝上野巴恵選手（三井住友海上）

「最近勝てなくて、期待を裏切り続けてしまいました。トップ選手とはまだ実力差がありますが、目の前の試合を確実に勝てるように頑張りたいと思います」

◉3位＝田知本遥選手（東海大）

「悔しいです。負けられない相手に負けてしまいました。もうあとは今後勝つしかありません」

▽78kg級

◉優勝＝緒方亜香里選手（筑波大）

「内容的には全然よくないので、直さないといけません。今後は自分でも納得できる内容で勝って、ロンドンに繋げたいと思いますし、自分がロンドンに行くと思っています」

◉佐藤瑠香選手（コマツ）

「ここで負けたら講道館杯で勝った意味がないと思っていました。この大会を落としたのは大きいです」

▽78kg超級

◉優勝＝杉本美香選手（コマツ）

「準決勝までは練習していることが出せて、一本に繋がりました。何が何でも勝つという気持ちで臨んだので、結果はよかったですが、決勝はもう少し攻められたと思います」

谷本育実（コマツ）［26］→［26］

1回戦　○上四方固　ジョウン（韓国）［15］
2回戦　優　勢⊖　アグベニュー（フランス）［6］

安松春香（環太平洋大）［69］→［69］

1回戦　◒優　勢　ドレクスラー（オーストリア）［24］
2回戦　裏　投○　ゾルニール（スロベニア）［3］

▽70kg 級

上野巴恵（三井住友海上）［47］→［23］

1回戦　○大外刈　アンソン（パラオ）
2回戦　○支釣込足　ズパンシック（カナダ）［11］
準々決勝　○上四方固　パスケ（フランス）［12］
準決勝　⊖優　勢　田知本遥（東海大）［5］
決　勝　○内　股　ブランコ（スペイン）［14］

田知本遥（東海大）［5］→［5］

2回戦　⊖優　勢　ダビドバ（ロシア）［68］
準々決勝　⊖優　勢　ティル（ドイツ）［19］
準決勝　優　勢⊖　上野巴恵（三井住友海上）［47］

大野陽子（立命館大）［49］→［49］

2回戦　○横四方固　ロブラ（スイス）［10］
準々決勝　合　技○　ブランコ（スペイン）［14］

今井優子（了徳寺学園職）［66］→［67］

2回戦　優　勢⊖　キム（韓国）

▽78kg 級

緒方亜香里（筑波大）［2］→［1］

2回戦　⊖優　勢　池田ひとみ（自衛隊体育学校）［38］
準々決勝　⊖優　勢　フェルケルク（オランダ）［12］
準決勝　⊖優　勢　ヴォラート（ドイツ）［8］
決　勝　○横四方固　ハリソン（アメリカ）［4］

佐藤瑠香（コマツ）［20］→［19］

2回戦　⊖優　勢　プレフジャーガル（モンゴル）［7］
準々決勝　優　勢⊖　ヴォラート（ドイツ）［8］

岡村智美（コマツ）［13］→［13］

2回戦　優　勢⊖　フェルケルク（オランダ）［12］

池田ひとみ（自衛隊体育学校）［38］→［38］

1回戦　○合　技　ユ（韓国）
2回戦　優　勢⊖　緒方亜香里（筑波大）［2］

▽78kg 超級

杉本美香（コマツ）［4］→［2］

準々決勝　○払　腰　ブライアント（イギリス）［17］
準決勝　○内　股　ポラフデール（スロベニア）［3］
決　勝　◒優　勢　田知本愛（ALSOK）［1］

田知本愛（ALSOK）［1］→［1］

準々決勝　○大外落　ブランコ（ベネズエラ）［30］
準決勝　⊖優　勢　キム（韓国）［5］
決　勝　優　勢◒　杉本美香（コマツ）［4］

橋口ななみ（近畿大）［なし］→［なし］

1回戦　○袈裟固　オルティス（キューバ）［7］
準々決勝　合　技○　キム（韓国）［5］

市橋寿々華（大阪府警）［なし］→［なし］

1回戦　一本背負投○　ポラフデール（スロベニア）［3］

※［　］内数字は世界ランキングを表す。

※表の見方

名前（所属）［大会前］→［大会後］		
試合	内容	対戦相手（国名・所属）［ランク］

【グランドスラム東京】

2009年のIJFグランプリシリーズ開始に伴って、嘉納治五郎杯東京国際柔道大会が改称され、グランドスラム東京として、開催されるようになった。

IJFの大会では、出場者に対し、成績に応じて、世界ランキング算出に使用されるポイントが付与される。

今夏行われるロンドン五輪の出場権もランキングによって得られ、今年4月30日時点で、男子は22位以内、女子は14位以内の選手に出場権が与えられる。

五輪に出場できるのは各国1名なので、同一国にランキング上位選手が複数いる場合は、その選手の数だけランキングを繰り下げて、五輪出場枠が決まる。22（14）位以内の選手が複数いる場合は、出場枠に入っている選手の中から、順位に関係なく選出できる。

また、各種大会のトーナメント抽選にもランキングが使用され、ランキング上位の選手はシードされる。

なお、グランドスラムは各階級に同一国から2名出場できるが、開催国は4名出場できる。ただし、ポイントが付与されるのは上位2名のみとなる。

【大会結果】

◆男子	金	銀	銅
60 kg級	山本浩史（日本体育大）	川端　龍（国士館大）	髙藤直寿（東海大相模高） 平岡拓晃（了徳寺学園職）
66 kg級	髙上智史（日本体育大）	モグシコフ（ロシア）	ツァガンバータル（モンゴル） 海老沼匡（明治大）
73 kg級	秋本啓之（了徳寺学園職）	イサエフ（ロシア）	中矢　力（東海大） エルモント（オランダ）
81 kg級	川上智弘（國學院大）	ギルエイロ（ブラジル）	マレシュ（ドイツ） 長島啓太（JRA）
90 kg級	西山将士（新日本製鐵）	ゴンザレス（キューバ）	リ（韓国） ボブロソフ（ロシア）
100 kg級	サモイロビッチ（ロシア）	ファン（韓国）	ツィレキゼ（グルジア） 穴井隆将（天理大職）
100 kg超級	ミハイリン（ロシア）	チョ（韓国）	シルバ（ブラジル） タングリエフ（ウズベキスタン）
◆女子	**金**	**銀**	**銅**
48 kg級	浅見八瑠奈（コマツ）	福見友子（了徳寺学園職）	ファンスニック（ベルギー） ジョン（韓国）
52 kg級	宮川拓美（小松大谷高）	ニェト（フランス）	ベルモイ（ベルギー） 橋本優貴（金沢学院大）
57 kg級	松本　薫（FLJ）	佐藤愛子（了徳寺学園職）	シウバ（ブラジル） 山本　杏（桐蔭学園高）
63 kg級	ゾルニール（スロベニア）	上野順恵（三井住友海上）	田中美衣（了徳寺学園職） ベレブールトセ（オランダ）
70 kg級	上野巴恵（三井住友海上）	ブランコ（スペイン）	田知本遥（東海大） クリス（ポーランド）
78 kg級	緒方亜香里（筑波大）	ハリソン（アメリカ）	ウォラート（ドイツ） アギアル（ブラジル）
78 kg超級	杉本美香（コマツ）	田知本愛（ALSOK）	ポラフデール（スロベニア） キム（韓国）

日本選手全成績

■男子

▽60kg 級

山本浩史（日本体育大）[3]→[2]

2回戦　○内　股　　アルベス（ブラジル）
3回戦　⊖優　勢　　コセイエフ（カザフスタン）[19]
準々決勝　◒優　勢　　チョイ（韓国）[9]
準決勝　○合　技　　髙藤直寿（東海大相模高）
決　勝　○朽木倒　　川端　龍（国士舘大）

川端　龍（国士舘大）[なし]→[51]

2回戦　○上四方固　　ガルスティアン（ロシア）[5]
3回戦　◒優　勢　　ムーレン（オランダ）[17]
準々決勝　○腕挫十字固　　キム（韓国）
準決勝　○朽木倒　　平岡拓晃（了徳寺学園職）[2]
決　勝　　朽木倒○　山本浩史（日本体育大）[3]

髙藤直寿（東海大相模高）[なし]→[なし]

1回戦　○釣込腰　　チェン（台湾）
2回戦　○合　技　　パイシャー（オーストリア）[18]
3回戦　⊖優　勢　　ザンタライア（ウクライナ）[4]
準々決勝　○小内刈　　ダバアドルジ（モンゴル）[8]
準決勝　　合　技○　山本浩史（日本体育大）[3]

平岡拓晃（了徳寺学園職）[2]→[3]

2回戦　○背負投　　エシンベトフ（ウズベキスタン）
3回戦　○小内刈　　エングルマイヤ（ドイツ）[20]
準々決勝　⊖優　勢　　ムスキエフ（アゼルバイジャン）[10]
準決勝　　朽木倒○　川端　龍（国士舘大）

▽66kg 級

髙上智史（日本体育大）[103]→[31]

1回戦　○横四方固　　ポラック（イスラエル）
2回戦　○内股透　　バルデラマ（ベネズエラ）[18]
3回戦　⊖優　勢　　ガダノフ（ロシア）[3]
準々決勝　○支釣込足　　チョイ（韓国）
準決勝　○掬　投　　ツァガンバータル（モンゴル）[2]
決　勝　○背負投　　モグシコフ（ロシア）[1]

海老沼匡（明治大）[4]→[3]

2回戦　○内　股　　オーテス（イギリス）
3回戦　⊖優　勢　　コルバル（フランス）[17]
準々決勝　⊖優　勢　　リム（カザフスタン）
準決勝　　背負投○　モグシコフ（ロシア）[1]

森下純平（筑波大）[5]→[5]

2回戦　○大内刈　　ファシー（ルーマニア）
3回戦　　内股透○　リム（カザフスタン）

福岡政章（ALSOK）[8]→[11]

2回戦　　裏　投○　ドラジャン（フランス）

▽73kg 級

秋本啓之（了徳寺学園職）[7]→[4]

2回戦　⊖優　勢　　フォーク（ドイツ）
3回戦　○背負投　　ナーティ（ガーナ）
準々決勝　○袈裟固　　ジュラコビロフ（ウズベキスタン）[8]
準決勝　○背負投　　中矢　力（東海大）[1]
決　勝　⊖優　勢　　イサエフ（ロシア）[6]

中矢　力（東海大）[1]→[1]

2回戦　○横四方固　　スクボルトフ（モルドバ）
3回戦　⊖優　勢　　シャリポフ（ウズベキスタン）[23]
準々決勝　○腕挫十字固　　コドゾコフ（ロシア）[11]
準決勝　　背負投○　秋本啓之（了徳寺学園職）[7]

大束匡彦（旭化成）[なし]→[212]

1回戦　○袖釣込腰　　パポー（スイス）
2回戦　　優　勢⊖　ルグラン（フランス）[9]

齋藤　涼（旭化成）[なし]→[120]

2回戦　　優　勢⊖　ヴァンティシェル（ベルギー）[10]

▽81kg 級

川上智弘（國學院大）[73]→[23]

1回戦　○背負投　　アイバーソン（オーストラリア）
2回戦　○小内巻込　　マゴメドフ（ロシア）[6]
3回戦　○小外刈　　チャノ（イタリア）
準々決勝　⊖優　勢　　ボズバイエフ（カザフスタン）[17]
準決勝　⊖優　勢　　マレシュ（ドイツ）[11]
決　勝　○谷　落　　ギルエイロ（ブラジル）[2]

長島啓太（JRA）[なし]→[67]

2回戦　○払　腰　　カント（ブラジル）[20]
3回戦　○大内刈　　ビショフ（ドイツ）[9]
準々決勝　○大内刈　　ブルイェーレ（イタリア）[21]
準決勝　　内股透○　ギルエイロ（ブラジル）[2]

中井貴裕（流通経済大）[3]→[5]

2回戦　⊖優　勢　　ストシアシェンカ（ベラルーシ）
3回戦　⊖優　勢　　ラジャブリ（アゼルバイジャン）[23]
準々決勝　　優　勢⊖　マレシュ（ドイツ）[11]

春山友紀（国士舘大）[110]→[108]

1回戦　○小外刈　　ムシル（チェコ）
2回戦　○三角締　　シュミット（フランス）[14]
3回戦　　袖釣込腰○　トーマ（モルドバ）[13]

▽90kg 級

西山将士（新日本製鐵）[14]→[12]

1回戦　○大外刈　　ツェン（台湾）
2回戦　◒優　勢　　コリエフ（ウズベキスタン）[7]
準々決勝　◒優　勢　　メロニ（イタリア）[18]
準決勝　⊖優　勢　　リ（韓国）[13]
決　勝　◒優　勢　　ゴンザレス（キューバ）[10]

小野卓志（了徳寺学園職）[2]→[2]

1回戦　○合　技　　ピオンテック（南アフリカ）
2回戦　○大内刈　　ボラット（カザフスタン）[22]
準々決勝　　優　勢◒　リ（韓国）[13]

西山大希（筑波大）[3]→[3]

1回戦　⊖優　勢　　ゴンチウク（ウクライナ）
2回戦　　大内刈○　メロニ（イタリア）[18]

吉田優也（東海大）[34]→[35]

1回戦　　優　勢⊖　ランドル（スロバキア）[24]

▽100kg 級

穴井隆将（天理大職）[1]→[2]

1回戦　○小内刈　　ヒガシ（アメリカ）
2回戦　⊖優　勢　　ペターズ（ドイツ）[24]
準々決勝　○送足払　　ナイダン（モンゴル）[12]
準決勝　　優　勢⊖　ファン（韓国）[6]

羽賀龍之介（東海大）[35]→[33]

1回戦　⊖優　勢　　コレア（ブラジル）
2回戦　○大内刈　　ヴァンデルギースト（ベルギー）[7]
準々決勝　　優　勢⊖　ファン（韓国）[6]

増渕　樹（旭化成）[なし]→[124]

2回戦　　谷　落○　ツィレキゼ（グルジア）[22]

熊代佑輔（ALSOK）[なし]→[なし]

1回戦　　一本背負投○　レイテ（ブラジル）[21]

▽100kg 超級

石井竜太（JRA）[71]→[56]

1回戦　○大外刈　　ウォナロビッチ（ポーランド）[12]
2回戦　○大外刈　　フェーステス（オランダ）[25]
準々決勝　　裏　投○　タングリエフ（ウズベキスタン）[8]

王子谷剛志（東海大）[なし]→[93]

1回戦　○支釣込足　　マカラウ（ベラルーシ）[20]
2回戦　　優　勢⊖　ミハイリン（ロシア）[19]

鈴木桂治（国士舘大教）[5]→[5]

2回戦　　優　勢⊖　チョ（韓国）

七戸　龍（九州電力）[87]→[81]

1回戦　　優　勢◒　シウバ（ブラジル）[9]

■女子

▽48kg 級

浅見八瑠奈（コマツ）[1]→[1]

2回戦　○横四方固　　遠藤宏美（筑波大）[32]
準々決勝　○不　戦　　チャン（韓国）[14]
準決勝　◒優　勢　　ファンスニック（ベルギー）[6]
決　勝　○小外掛　　福見友子（了徳寺学園職）[2]

福見友子（了徳寺学園職）[2]→[2]

2回戦　○袈裟固　　モスカット（イタリア）[25]
準々決勝　○三角締　　コンドラテワ（ロシア）[12]
準決勝　○横四方固　　ジョン（韓国）
決　勝　　小外掛○　浅見八瑠奈（コマツ）[1]

山﨑珠美（三浦学苑高）[なし]→[なし]

1回戦　○合　技　　シュワルツ（イスラエル）[24]
2回戦　○隅　落　　メネゼス（ブラジル）[3]
準々決勝　　優　勢⊖　ジョン（韓国）

遠藤宏美（筑波大）[32]→[33]

1回戦　⊖優　勢　　シライシ（アメリカ）
2回戦　　横四方固○　浅見八瑠奈（コマツ）[1]

▽52kg 級

宮川拓美（小松大谷高）[なし]→[27]

1回戦　○合　技　　カラスコサ（スペイン）[5]
2回戦　○内　股　　スンドベルグ（フィンランド）[20]
準々決勝　○袈裟固　　フォルチニティ（イタリア）[18]
準決勝　○小内刈　　ベルモイ（キューバ）[14]
決　勝　○横四方固　　ニェト（フランス）[10]

橋本優貴（金沢学院大）[24]→[24]

1回戦　○横四方固　　ブンドマー（モンゴル）[3]
2回戦　◒優　勢　　キム（韓国）
準々決勝　◒優　勢　　タラングル（ドイツ）[16]
準決勝　　優　勢⊖　ニェト（フランス）[10]

中村美里（三井住友海上）[2]→[2]

1回戦　○横四方固　　パーク（韓国）
2回戦　○体　落　　キトゥ（ルーマニア）[24]
準々決勝　　優　勢⊖　ベルモイ（キューバ）[14]

加賀谷千保（山梨学院大）[39]→[38]

1回戦　⊖優　勢　　ミュレ（ルクセンブルク）[17]
2回戦　　優　勢⊖　ニェト（フランス）[10]

▽57kg 級

松本　薫（FLJ）[1]→[1]

2回戦　⊖優　勢　　リエン（台湾）[26]
準々決勝　○縦四方固　　ガシモバ（アゼルバイジャン）[12]
準決勝　○横四方固　　シウバ（ブラジル）[7]
決　勝　⊖優　勢　　佐藤愛子（了徳寺学園職）[2]

佐藤愛子（了徳寺学園職）[2]→[2]

1回戦　○合　技　　ビアビセンシオ（エクアドル）
2回戦　○背負投　　フランセン（オランダ）[25]
準々決勝　⊖優　勢　　ブクパラ（ギリシャ）[14]
準決勝　○縦四方固　　山本　杏（桐蔭学園高）
決　勝　　優　勢⊖　松本　薫（FLJ）[1]

山本　杏（桐蔭学園高）[なし]→[なし]

1回戦　⊖優　勢　　レンジ（オーストラリア）[24]
2回戦　◒優　勢　　パビア（フランス）[5]
準々決勝　⊖優　勢　　キム（韓国）[9]
準決勝　　縦四方固○　佐藤愛子（了徳寺学園職）[2]

石川　慈（コマツ）[55]→[58]

1回戦　○合　技　　フィルツモザー（オーストリア）[6]
2回戦　　大　腰○　ロコ（フランス）[21]

▽63kg 級

上野順恵（三井住友海上）[2]→[2]

1回戦　○横四方固　　トルステンヤク（スロベニア）
2回戦　○合　技　　コーニグ（オーストラリア）[25]
準々決勝　◒優　勢　　ガビー（イスラエル）[11]
準決勝　○縦四方固　　ビルボーザ（オランダ）[5]
決　勝　　優　勢⊖　ゾルニール（スロベニア）[3]

田中美衣（了徳寺学園職）[21]→[13]

1回戦　○内　股　　バレト（ベネズエラ）
2回戦　○大内刈　　ファンエムデン（オランダ）[4]
準々決勝　⊖優　勢　　シュルシンガー（イスラエル）[7]
準決勝　　優　勢⊖　ゾルニール（スロベニア）[3]

待望の単行本化

嘉納治五郎と講道館の高弟をはじめとする日本人の手による柔道の国際的普及の歴史

柔道の國際化
――その歴史と課題

財団法人講道館 図書資料部長
村田直樹 著

題字 講道館名誉館長・嘉納行光

講道館柔道を創始し、自ら柔道を世界に広めるため尽力した嘉納治五郎。嘉納の意思を受けて海外雄飛した、講道館を代表する高弟たち。彼らは如何に、どのような思いで、普及に取り組んだのか。

数々の資料を繙き、柔道が世界的な競技となるまでの、先達の足跡をたどる。そして、そこから見えてきた運動文化の国際的普及における課題とは。

（四六判・上製・552頁）

第1章　普及への意思
柔道史の原点
欧州教育事情視察

第2章　海外への進出
米国大統領の入門
新大陸へ派遣第2号
異種格闘技に生きた前田光世
英国柔道の基礎ー武道会
武道会を訪れた嘉納と高弟会田
小泉が語る英国柔道史
仏蘭西への道
メトード・カワイシとは何か
駐仏日本国大使　杉村陽太郎
続々と仏蘭西へ
海外より見た柔道ー独逸通信
東洋への進出
異文化理解の容易なさ

第3章　国際柔道連盟の結成
国際柔道連盟設立の前夜
嘉納逝き連盟成らず
欧州から国際柔道連盟の結成
講道館長、国際柔連会長に就任
世界柔道選手権大会開催
東京五輪招致成功
東京五輪と正式種目柔道
パリの仇
体重別に勝ち、無差別に散る

第4章　道とスポーツ
日本の後退　欧州の前進
変わり行く柔道
不易流行

編集・発行　日本武道館
〒102-8321　東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

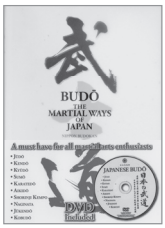
お問い合わせ・ご注文は日本武道館出版広報課までどうぞ！
TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本（本をクリックすると、詳細が表示されます）

日本の武道

日本武道館 編

（B5判・上製・箱入・526頁）



BUDŌ：THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット

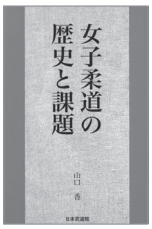
（B5判・上製・DVD付・336頁）

役に立つ少年柔道指導法

講道館道場指導部課長

向井 幹博 著

（A5判・並製・DVD付・414頁）



女子柔道の歴史と課題

筑波大学大学院准教授

山口 香 著

（四六判・上製・412頁）

マンガ・武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

（B5判・並製・236頁）

武道における身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

（四六判・上製・370頁）

柔道はすばらしい

柔道塾紀柔館館長

腹巻 宏一 著

（四六判・上製・310頁）

今、なぜ武道か

―文化と伝統を問う―

福島大学教授

中村 民雄 著

（四六判・上製・370頁）

大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

（四六判・上製・376頁）

武道 過去・現在・未来

国際武道大学教授

田中　守 著

（四六判・上製・274頁）

武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野　純 著

（四六判・上製・410頁）

嘉納治五郎師範に学ぶ

講道館図書資料部長

村田 直樹 著

（四六判・上製・292頁）

剣道文化講演会
「日本のアイデンティティ」と「女子剣道」をテーマに開催

第10回剣道文化講演会は昨年12月10日、東京・文京区のベルサール飯田橋ファーストで行われ、約500名が集まった。前半は宮脇磊介（みやわきらいすけ）氏（宮脇磊介事務所代表、国際武道大学理事、学校法人国士舘理事）による講演「『日本のアイデンティティとは何かを考える』――『国際化する武道』と日本文化に連綿と流れる『普遍的価値』――」が、後半は5名の女性剣道家がパネリストとなって「これからの女子剣道を考える」のテーマでパネルディスカッションが行われた。

パネルディスカッション

■宮脇磊介氏講演
「日本のアイデンティティとは何かを考える」
――「国際化する武道」と日本文化に連綿と流れる「普遍的価値」――

（講演要旨）

武道が国際化している。それに伴い、例えば柔道では、ルール変更やブルー柔道着の登場などがあった。しかし、精神面までも否定されてしまったら武道とは言えなくなる。

そのような状況で、日本武道の真髄、最後まで守り抜かなければならないものは何かということが問われている。それは日本文化と関わりがあるものであり、つまり日本のアイデンティティが問われているということである。

それぞれの国は異なる文化を持っている。互いの国の文化を知り、自国の文化との違いを理解することが、国際的な交際に欠くべからざる要素になってきている。そのため、武道だけでなくさまざまな分野で日本のアイデンティティが見つめられるようになってきている。

その中で、「武士道」が日本のアイデンティティとして取り上げられているが、武士道は400年ほどの歴史しか持っていない。日本の歴史は神話の時代に始まる。「古事記」などが記す神話の時代から、日本の祖先は「武」を尊び、刀剣に格別の権威を抱いていた。刀剣の力への崇敬の念は日本人の精神性の柱となった。

このような「武の文化」は、日本の伝統文化の源流を成す。これを生

み出すことができたのは、唯一神をあがめる宗教の拘束を受けない「リリジョン・フリー」(religion free)という環境があったからである。そのような環境下で、「アニミズム」などの信仰心が生まれた。

このアニミズム信仰の影響で、日本人は万物・森羅万象に対する畏敬の念、感謝の気持ち、謙虚な心を持っている。これは人間としてありのままの心の状態、本来の姿であり、それにより洞察力や直感が研ぎ澄まされてくる。

リリジョン・フリーの環境は、古来からの日本文化そのものである。近頃では外国人がこれに魅力を感じるようになってきている。世界に平和をもたらすことができる理念だと予感させるからだ。

そのような中で日本の武道家の役割は、リリジョン・フリーの精神環境、そこから次々と生まれてくる洗練された日本の文化と、自由闊達な想像力と発想力に富んだ日本文化を、外国の人たちと十分議論しあえる説得力、海外に発信できる力を涵養することなのではないか。

宮脇磊介氏

■パネルディスカッション「これからの女子剣道を考える」

緒方喜治氏（全日本剣道連盟広報委員会委員、元ＮＨＫチーフアナウンサー、「ＮＨＫ大相撲中継」編集長）の司会で、藤野圭江教士七段、軽米満世教士七段、堀部あけみ教士七段、村山千夏錬士六段、小津野祐佳六段の5名の女性剣道家がパネリストとなって行われた。

最初に全員が剣道を始めたきっかけを述べた。パネリストからは、剣道をする女性がほとんどいなかったという話が多く聞かれた。

そこで緒方氏は、女子剣道がこれほど隆盛したのはなぜか意見を求めた。軽米氏は「インターハイの女子の部や、家庭婦人大会ができたこと」を挙げた。藤野氏と堀部氏からは、「日本が高度経済成長を経て豊かになり、家族の理解を得やすくなったり、女性が社会に参画するようになったこと」が要因ではないかと答えた。村山氏は「現在では女性が剣道をする環境が整ってきている」と話し、小津野氏は「女性の先輩を見ていると、自分もやめるわけにはいかないという気持ちになる」という。

続いて、結婚・育児・介護と剣道の両立についての話題に移った。藤野氏は「竹刀を持たずにお嫁に行った」といい、約20年のブランクがあった。しかしその間も、「剣道で学んだことは生活に役に立っていた」と話した。軽米氏は「結婚に子育てや介護は付き物で、剣道を続けるのは厳しい。それでも剣道が人生の柱だったのでやめられなかった」という。堀部氏は母親が病気になったとき、今何をするべきかを考えて優先順位をつけ、剣道を中断した。

最後に、剣道から学んだことは何かという質問に対し、小津野氏は「多くの人と通じ合える。心づかいなど勉強になる」、村山氏は「感謝する心。いろいろな人と出会えたのも剣道のおかげ」、堀部氏は「剣を交えることによって、相手のことも自分のこともよく分かる」、軽米氏は「礼の心」、藤野氏は「みんなに生かしてもらっているということ」と答えた。

パネリストの話からは、女性ならではのさまざまな実体験を知ることができ、女性剣道家たちには大いに参考になったのではないだろうか。

（左から）緒方喜治氏、藤野圭江氏、軽米満世氏、堀部あけみ氏、村山千夏氏、小津野祐佳氏

心技体 人を育てる総合誌
月刊 武道

日本武道館の単行本

著者の80年の生涯にわたる剣道修錬を集大成した本格的剣道修行論

好評発売中!

剣の清流

（写真提供＝剣道時代）

全日本剣道連盟相談役・剣道範士九段

堀籠　敬藏　著

（四六判・上製・344頁）

目次

第一章　剣道
第二章　剣道の歴史
第三章　修錬・先人に学ぶ
第四章　剣道の極意
第五章　武道における「礼」
第六章　剣理
第七章　指導者としての心構え

編集・発行　日本武道館
〒102-8321　東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

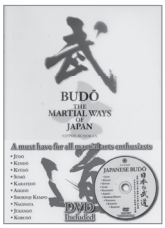
お問い合わせ・ご注文は日本武道館出版広報課までどうぞ！
TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本（本をクリックすると、詳細が表示されます）

日本の武道

日本武道館 編

（B5判・上製・箱入・526頁）



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット

（B5判・上製・DVD付・336頁）

高め合う剣道

筑波大学名誉教授

佐藤 成明 著

（四六判・上製・564頁）

刀剣の歴史と思想

筑波大学大学院准教授

酒井 利信 著

（四六判・上製・346頁）

マンガ・武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

（B5判・並製・236頁）

武道における身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

（四六判・上製・370頁）

禅の思想と剣術

北海道大学大学院教授

佐藤錬太郎 著

（四六判・上製・386頁）

今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

（四六判・上製・370頁）

人を育てる剣道

剣道範士八段

角　正武 著

（四六判・上製・268頁）

武道 過去・現在・未来

国際武道大学教授

田中　守 著

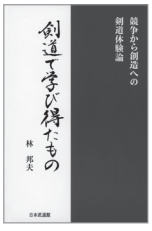
（四六判・上製・274頁）

兵法家伝書に学ぶ

文教大学教授

加藤 純一 著

（四六判・上製・344頁）



剣道で学び得たもの

中京大学教授

林　邦夫 著

（四六判・上製・298頁）